

ミューズ NO. 27 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2011年10月

編集：山辺昌彦、山根和代、安斎育郎

翻訳：池田えりこ、瀧由里子、竹田敦子、谷川佳子、増田妃早子、安原三保子

イラスト：戸崎恵理子

事務局：戦争と平和の資料館ピースあいち 宮原大輔

住所：〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2-820

Tel & Fax: 052-602-4222

平和のための博物館・市民ネットワーク第11回全国交流会 全国交流会プログラム

第11回平和博物館市民ネットワークの交流会を2011年11月26日(土)～27日(日)に丸木美術館で開催します。

1日目は、2つの特別報告と例年のように応募していただいた方の報告をしていただきます。2日目は、丸木美術館学芸員さんによる解説と鑑賞、1日目に続いての討論をおこないます。

ぜひご参加ください。

○1日目の詳細予定

13:30～18:00

丸木美術館流々庵において

・特別報告

小寺隆幸さん(財団法人原爆の図丸木美術館理事長)

安田和也さん(公益財団法人第五福竜丸平和協会事務局長)

・報告(報告者は事前にお申込みのうえ、各自プリントを30部をご用意ください)

・懇親会(18:30～、紫雲閣にて)

(丸木美術館→紫雲閣はマイクロバスで移動)

○2日目の詳細予定

(紫雲閣→丸木美術館はマイクロバスで移動)

・丸木美術館特別見学(09:00～11:00)

原爆の図を中心に岡村幸宣学芸員さんの解説と鑑賞

・交流会

11:00～14:00(昼食をはさんで)丸木美術館流々庵において

(昼食は丸木美術館のボランティアさんのつくるカレーを提供していただけるそうです)

・「平和のための博物館・市民ネットワーク」の会計・事業報告もします。

○参加費 無料ですが、丸木美術館の入館料大人 900円が必要です

○懇親会 会費5000円(飲み物付き)

ホテル紫雲閣(<http://www.shiunkaku.net/>)

(東武東上線東松山駅西口徒歩3分、懇親会まででお帰りの方にも便利です)

丸木美術館→紫雲閣は紫雲閣のマイクロバスを出していただきます。

○宿泊 ホテル紫雲閣

和室相部屋5000円

シングル5000円、5500円(満室の可能性あり)



erico

○申し込み

◆懇親会申し込み 10月末日までに丸木美術館へ

◆宿泊申し込み 10月末日までに丸木美術館へ
丸木美術館

TEL:0493-22-3266 FAX:0493-24-8371

◆参加申し込み 11月19日(土)までに宮原へ

◆報告申し込み 11月12日(土)までに宮原へ
宮原 ピースあいち TEL/FAX052-602-4222
Eメール(宮原)arc@vega.ocn.ne.jp

森林公園から丸木美術館へ

森林公園駅下車3.5キロ、タクシー12分

タクシーの乗り合わせは、当日13時05分に森林公園
駅南口階段下に集合し、集まった人で乗り合わせてくだ
さい。池袋発の急行は、森林公園着が12時台は33、45、
57分です。

丸木美術館:埼玉

岡村 幸宣 原爆の凶丸木美術館学芸員

3月11日の大震災発生時、丸木美術館では、丸木夫
妻の《原爆の凶》と、ベン・シャーン Ben Shahn の《ラッキ
ードラゴン・シリーズ》を展示した「第五福竜丸事件」展を
開催中でした。

3月5日には、元第五福竜丸乗組員・大石又七さんと、
詩人のアーサー・ビナード Arthur Binard さんの対談を
行い、ビナードさんは「私たちは第五福竜丸に乗ってい
る」という暗示的な発言をされていましたが、原発事故を
境に、私たちは放射能と隣り合わせの危機に直面するこ
とになったのです。

こうした状況を踏まえて、5月3日から6月25日まで
緊急企画「チェルノブイリから見えるもの」を開催しました。
25年前の原発事故で被曝した地域の人々の暮らしを描
いた具原浩さんの絵画《風しもの村》連作や、広河隆一
さん、本橋成一さんの写真を展示し、チェルノブイリから
クシマへと想像力を広げて欲しいとの思いを込めました。
会期中にはチェルノブイリを歌う小室等さんのコンサート
や、本橋さんのトーク、フォトジャーナリスト・豊田直巳
さんの福島原発事故現地報告会、チェルノブイリでの被曝
した歌手のナターシャ・グジーさんらによる復興支援コン
サートを開催し、多くの方が訪れて下さいました。

位里の母・スマは、「ピカ(原爆)は地震や津波とは違う、
人が落とさなきゃ落ちてこん」という言葉を残しています。
ピカを「原発」に言い換えれば、地震や津波を「想定外」と
することで隠される問題の本質が見えてくるように感じる
この頃です。

〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子 1401

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

メール Okamura16@aol.com

丸木美術館学芸員日誌

<http://fine.ap.teacup.com/maruki-g/>

アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」
(wam)

事務局長 渡辺美奈

2011年1月、wam は韓国の著名なアーティスト、ユ
ン・ソクナムさんを招いたシンポジウムで始まりました。ソ
クナムさんは平和のために活動する wam に共感し、資
金源にしてほしいと様々な女性の木像 999 体からなる
《999》という作品の中から 20 体を寄贈してくれました。仏
教で満たされた状態を表す 1000 から 1 つ足りないこの
《999》という作品には、どの女性も世界を満たされた状態
にする一人になりうる、というメッセージが込められていま
す。作品は完売し、12月まで wam で展示したあと、購入
者にお送りすることになっています。

2011年7月2日からは、第9回特別展「フィリピン・立
ち上がるロラたち～日本軍に踏みにじられた島々から
～」がスタートしました。第二次世界大戦中、日本軍はア
メリカ軍とフィリピンの人々の抗日運動に追い詰められな
がらも、おびたしい数の慰安所、強かん所を作り、戦場
強かんを繰り広げました。このフィリピン版の三光作戦
(殺し尽くし、焼き尽くし、奪い尽くす)とも言える実態が、
近年の証言の聞き取りや資料の発掘で明らかになってき
ました。今回の特別展では、ロラ(タガログ語で「おばあ
さん」)たちを支援してきた市民グループや調査・発掘に取
り組んできた研究者の方々力を借りて、フィリピンでの
性暴力被害の全体像と最新情報をお伝えしています。

フィリピンで初めて名乗り出たマリア・ロサ・ルナ・ヘン
ソンさんは、『慰安婦』被害者は名乗り出て…というラジ
オからの呼びかけを聞いた時、全身に衝撃を覚え、血が
白くなったように感じました」と語りました。その後、400
人あまりの被害者が立ち上がり、このロラたちの勇気ある名
乗り出と闘いが大きな役割を果たしました。7月2日には、
日本軍の性暴力被害者、フィリピンからフェリシダッド・
デ・ロス・レイエスさん、支援者のレチルダ・エクストレマ
デュラさんを招いたオープニング・イベントを開催、2カ
月で10万人の市民が亡くなったマニラ戦の実像について、
中野聡さん(一橋大学)にも講演して頂きました。あまりに
も知られていないフィリピン戦の実態を伝えるため、秋か
らは、「元兵士が見たフィリピン戦」と題して、元兵士や聞
き取りをした方々との対話形式で話を聞くセミナーを開催
する予定です。

1991年8月14日に韓国の「慰安婦」被害者・金学順さんが名乗り出たから今年で20年です。韓国・ソウルの日本大使館前で毎週水曜日に開かれてきた「水曜デモ」も、今年の12月14日で1000回を迎えます。被害者が一人でも多く存命のうちに「慰安婦」問題を解決するため、wamでは連帯行動にも積極的に参加していきます。みなさまのご来館、ご参加をお待ちしています。

「ソウルに行ったら平和博物館にKAJA(カジャ=行こう)！」

KAJA事務局 中川緑

私たちKAJA(Korea And Japan Alternative learning group)はドラマ・映画や音楽を通じて韓国の歴史や文化を学んでいる小さな市民グループで、恵泉女学園大学の李泳采(イ・ヨンチェ)先生を中心に月1回の学習会と年1回のスタディツアーを行なっています。今年3月のスタディツアーでは韓国聖公会大学の韓洪九(ハン・ホング)先生と江華島やソウル市内外の歴史的遺跡を共に歩き、先生が理事をされている平和博物館も案内していただきました。

この博物館は、ベトナム戦争で韓国軍が行なった住民虐殺を反省する「ミアネヨ、ベトナム」という運動が1990年代後半にあり、そのときに元日本軍「慰安婦」のハルモニお二人が全財産を寄付され、それを「平和のタネ」として設立されたこと、この運動は「苦痛・記憶・連帯」の精神で、平和の感受性を育てる活動拠点になっていることを知りました。

人生を踏みにじられたハルモニが、同じように傷ついた見も知らぬベトナムの人々に思いを寄せ苦痛を分かち合おうとされた、その生き方を受け止め未来につなげようとしている、このお話は、韓国やアジア諸国にとって加害者であった私たち日本人には衝撃でした。

近年、私たちのように韓国ドラマ好き・韓国好きという人たちがとても増え、朝鮮の歴史を知る機会が多くなりましたが、日本の侵略の歴史、朝鮮の人々への暴挙を知ると居たたまれなくなり、逆に目を背けてしまう傾向もあります。加害の歴史をどう受け止めたらいいいのか、この課題に一筋の道を示してくれたのが平和博物館の精神でした。人の苦痛を感じられる感受性、分かち合おうとする気持ちが基礎なんだ！

自分の受けた衝撃を身近な人たちに伝えたくて日本語のリーフレット作りを思いつきました。リーフレットにすれば、ソウルに行ったときに立ち寄ってくれる人がいるかもしれない、そのとき私たちと同じように「苦痛・記憶・連帯」の精神にふれ、心揺さぶられるかもしれない。

博物館スタッフの金英丸さんの助力、韓洪九先生の許

可も得、6月に完成。いま会員それぞれが、関係する団体や友人・知人にリーフレットを手渡し、ソウルへ行ったら平和博物館へも足を運んでと話しています。

大量にはありませんが、全国の博物館の皆さまがご自分のところに置いてくださると嬉しいです。ご連絡は以下のアドレスにお願いいたします。

<https://sites.google.com/site/kajalearninggroup/contact-us>

都立第五福竜丸展示館:東京

安田和也

◆東日本大震災・福島原発事故の影響は、修学旅行の中止、行き先変更、3月中の来館者の減少などに現れました。

一方で、原発事故による放射線への環境汚染への関心、第五福竜丸被ばく当時の状況に興味を抱く方、現況をどのように考えればよいか不安を訴える方の質問などが多く寄せられ、企画展を熱心に見入る来館者の姿が見受けられます。

9月19日まで、企画展「ビキニ事件新聞切抜帖～第五福竜丸の被災と人びとの暮らし」を開いています。57年前、ビキニ事件は全国の新聞に連日報道され、“原子マグロ”“放射能雨”“農作物”などへの市民の不安は高まりました。展示は当時の新聞記事104点、資料25点から構成しています。また、関連企画として市民講座「ヒトと地球と放射線」を6月に3回実施、講師に崎山比早子(元放射線医学総合研究所主任研究官)、安斎育郎(立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)、奥山修平(中央大学教授)の各氏を迎え、被ばくや放射線防護、第五福竜丸事件当時の環境汚染などについて講演、当時の科学ドキュメンタリー映像も映し、のべ170名が参加しました。

原発の事故と汚染の広がり、ビキニ事件当時を想起させます。三度の原水爆被害の経験をこの国の市民の常識にしてこれなかったとの想いを抱きつつ、これからのあり方をしっかりと見据えて、第五福竜丸・ビキニ事件を正確に伝えていかなければと心する日々です。

◆9月23日からは秋の企画展「船を見つめた瞳2011」を開催し、第五福竜丸展示館を訪れた生徒たち、市民の感想文を展示します。今年は開館35年、核兵器も戦争もない世界を願いつつ、船を残した人びとの想いは、こんにちどのように受け止められているのか、そしてフクシマ以後の人びとの想いは……第五福竜丸を見つめる人びとの希いを展示します(会期は2012年3月初旬まで)。

4周年を迎えた「平和の港」

山梨平和ミュージアム理事長 浅川 保

昨年12月4～5日、甲府市の当山梨平和ミュージアムをメイン会場に行われた第10回平和博全国交流会には、遠路はるばるご参加頂きありがとうございました。お陰様で、のべ57名が参加、盛況裡に終わることができました。それ以降の取り組みを中心に報告します。

昨秋からの企画展「沖縄戦を考える」に続いて、2011年4月から、企画展「山梨の戦争遺跡・遺物展」を始め、9月末までの予定で実施しています。山梨戦跡ネットを中心としたこれまでの山梨県内の戦争遺跡の調査・保存の取り組みをまとめたもので、韮崎七里岩地下壕、南アルプス市ロタコ跡、大月監視廠跡などの戦争遺跡をパネルで紹介したり、甲府空襲で焼け残った遺品や、戦闘機・隼の機体の一部などの実物を展示しています。

6月19日には、(平塚)らいてうの家館長の米田佐代子氏を迎えて4周年記念行事を行いました。米田氏は、今年が「元始、女性は太陽であった」で知られる『青鞥』刊行100年にあたることから、平塚らいてうを取り上げられ、「平塚らいてうの平和思想」のテーマで講演され、盛況裡に終わりました。

入館者ですが、お陰さまで、この7月に、7,000名を超えました。また、開館以来、毎月、講演会・シンポジウムなどの企画行事を行い、30～50名が参加、交流を深めています。

満州事変80年・アジア太平洋戦争70年にあたる今年の秋10月には、企画展「満州事変80年を考える」を行う予定で準備を進めています。

Tel & Fax:055-235-5659

HP ypm-japan. j

戦争と平和の資料館ピースあいち:愛知

事務局長 宮原大輔

戦争と平和の資料館ピースあいちの活動より

●ホームページリニューアルとピースあいちブログの開設
ホームページは中長期、ブログではイベントなど短期的な情報を中心に使い分けることにして、ブログを開設しました。ブログには月に1000件ほどのアクセスがあります。

●パレスチナの子どものたちの絵画展(3月22日～4月23日)

イスラエルによる厳しい封鎖から4年を迎えるパレスチナの子どものたちの絵画展。そこに暮らす子どもたちが描いた絵の絵画展です。NPOパレスチナ子どものキャンペーンのご協力を得ました。期間中に最新ガザ報告講演会を行い(3月26

日)、同NPO代表理事の北林岳彦さんのお話を聞きました。あわせてフォトジャーナリスト古居みずえさんの写真によるパレスチナ写真展(3月22日～3月26日)を開催しました。

●名古屋空襲パネル展(2月22日～3月19日)

3月12日、19日の名古屋大空襲に合わせて開催したもので、開館3周年特別展で作成した展示パネルを活用しました。また、3月19日には名古屋空襲犠牲者追悼の夕べを開催しました。空襲体験の語り・キャンドル灯火・追悼法要・ピアノ演奏を行いました。

●ピースあいちニュース第9号発行(5月1日発行)

年2回の発行です。半年間の活動報告を中心に編集し、NPO会員さんなどに発送しました。

●開館4周年ピースまつり(5月7日、8日)

恒例となりました、5月4日の開館記念日を祝うお祭りです(無料解放)。バザー、ショップ販売(フェアトレード品など)、子どもコーナー(おもちゃ病院など)のほか、イベントとしてオープニングシャンソンコンサート、ピーストーク みんなで語る平和への思い、フォルクローレライブ、ピースコンサートが催され、いずれも1階ホールが満員になりました。平和団体活動紹介では5団体、イベント協力として7団体の皆さんに参加いただきました。

●語り手の会例会(5月30日)

第3回の例会となりました。20数名の方の参加があり、平和学習支援事業、夏の戦争体験を語るシリーズ、第2回戦争体験手記集の募集などを決めました。

●没後66年アンネ・フランク パネル展(5月19日～5月27日)

ピースあいちの1階を広く使って展示会を開催しました。アンネ・フランク財団が作成したパネルは好評でした

●沖縄戦とひめゆり学徒隊展(5月17日～6月25日)

ひめゆり平和祈念資料館作成の「沖縄戦とひめゆり学徒隊」パネルを使って、展示会を開催しました。ひめゆり平和祈念資料館にはたいへんお世話になりました。期間中に沖縄慰霊の日特別企画としてNHK作品の上映とディレクターの語り“集団自決”戦後64年の告白～沖縄・渡嘉敷島～(NHKTV、2009年)を開催しました。

●現在3階では「夏休み特別企画展 戦争と子どもたちの暮らし」を開催し、子どもさんたちの来館をお待ちしています(7月12日～8月31日)。来館者数はこの夏に3万人に達する予想です。

立命館大学国際平和ミュージアムの活動報告:京都市

立命館大学国際平和ミュージアム

教育文化事業課 鳥井真木

【運営体制】

立命館大学国際平和ミュージアムは開設して 19 年目を迎えた。安齋育郎名誉館長は立命館大学を退職され、引き続き名誉館長としてあたられるほか、安齋科学・平和事務所を開設された。引き続き高杉巴彦館長と、副館長に新たに加國尚志先生が着任された。来年開設 20 周年を迎えるため、その記念事業策定に向けた検討を始めている。以下、2011 年度前半期の主な展示や活動の概要について報告する。

【特別展】

春季特別展「世界 187 の顔—生命の現場から—」5 月 17 日～7 月 10 日 これは、日本ビジュアル・ジャーナリスト協会(JVJA)会員たちが生命の危機にさらされている紛争や環境破壊、貧困、自然災害など世界各地で取材した様々な現場を伝えるために制作された約 130 枚の写真パネルで構成されている。5 月 24 日に、JVJA 会員・オンラインマガジン「fotgazel」創刊号編集長の山本宗補氏による記念講演会を開催した。

【ミニ企画展】(タイトルと期間のみ)

第 63 回「ジャック・サル展—De/Portees 強制収容—」4 月 15 日～5 月 4 日

第 64 回「フィリピンスタディーツアー報告展」AKAY Youth Japan 5 月 7 日～6 月 5 日

第 65 回「Non-profit Activity WORLD CHIRDREN PHOTO PROJECT:写真展 地球が教室 平和にピンクト!世界の教え子」6 月 10 日～6 月 30 日

第 66 回「むすんで、ひらいて、戦争ってなに? <慶三とキヨ>ふたりを引き裂き、結んだもの」7 月 3 日～18 日 メディア資料室・学生スタッフ発信隊

第 67 回「戦時下の食卓—朝・昼・夜—」7 月 22 日～8 月 28 日

【特別展と関連講演会】

2011 年 3 月 11 日(金)に起こった東日本大震災は、未曾有の自然災害という面と、未曾有の原発事故という二つの側面をもっている。ミュージアムでは、震災発生直後より、「生命の現場」である被災地から震災の事実を伝え、離れた地に暮らす人々の被災地への思いを呼び起こし、復興へのきっかけの場とするため、緊急に以下の企画を行った。

1. 特別講演会 講師:安齋育郎名誉館長

第 1 回:「福島原発事故による放射能災害と私たちの生活」3 月 23 日

第 2 回:「福島原発から何を学ぶか?—二度の現地調査をふまえて—」6 月 29 日

2. 特別企画写真展「東日本大震災の現場から」(企画協力:JVJA)同時開催「安齋郁郎名誉館長、福島原発被災地に行く」第 1 弾:5 月 17 日～6 月 19 日、第 2 弾:6 月 21 日～7 月 30 日 第 1 弾展示では、震災直後の被災地

や被災された人々に焦点が当て、第 2 弾展示では、震災発生から数ヶ月が経過した現地の様子を中心に展示した。また、パネル展示「安齋育郎名誉館長、福島原発被災地に行く」を開催し、安齋名誉館長が原発事故の影響下にある福島県を訪れ、現地の調査をすると共に講演の様子を、安齋名誉館長が撮影した写真も交えてパネル展示で紹介し好評を得た。

3. 女性初のノーベル平和賞受賞者「ベルタ・フォン・ズットナー展」8 月 10 日～28 日 講演会:8 月 20 日(土) Dr.Peter van den Dungen

4. 「第 31 回平和のための京都の戦争展」8 月 2 日～7 日

【『カティンの森』DVD 上映とレクチャー】5 月 29 日

ボランティアガイド、学生スタッフを中心に、学習会を兼ねた企画とし開催した。ポーランド大使館の協力を得て、駐日ポーランド共和国大使館一等書記官のラドスワフ・ティシュキビッチ氏のレクチャーを行った。

【NGO ワークショップ:PEACE BOAT】

2階の平和創造展示室で紹介する NGO 団体のワークショップを 7 月 16 日に開催した。今回は、PEACE BOAT の国際部中沢氏を招聘し、企画・進行は学生スタッフが行った。

【夏休み企画】

1. 夏休み親子企画「へいわ」ってなに?? 2011

第 1 回:7 月 22 日 第 2 回:7 月 30 日 平和のお話(安齋郁郎名誉館長^{みやこ} 京 エコロジーセンターの職員と一緒に、節電や環境問題について考えよう(7/22)。「さいころくん」を使って、大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に平和について考えよう(7/30)。

2. 小中学校教員対象下見見学会 2011

戦争と平和の歴史を知り、平和創造のあり様を学校教育に携わる先生方とともに考え、ミュージアム見学につなげたいとの思いから、2007 年度より見学会を実施している。見学をより充実したものにして、ミュージアムの教育現場での利活用を考えていただけるように取り組んでいる。7 月～8 月の夏休み期間中に 5 回開催した。

【国際平和・人権連続セミナー～平和の諸相を見る】

2009 年度より、国際平和人権連続セミナーと題して、世界各国から知識人を招き、世界的な視野に立ち、平和を見つめる為の講演会を行っている。

第 5 回:「国際平和構築と化学兵器禁止条約」5 月 10 日 講師:アレクサンダー・オルブリッヒ博士(大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事) 共催:大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館

第 6 回:「沖縄戦と在沖米軍基地問題を考える」7 月 20 日 講師:大田昌秀沖縄県元知事

【第 7 回国際平和博物館会議】主催:世界平和博物館ネ

ネットワーク 5月4日～7日

国際平和博物館会議は、3年おきに開催される平和博物館の国際会議。前回(2008年)は日本で開催された。今年スペインのバルセロナでの第7回会議に、立命館大学から2名(山根和代国際関係学部教員、兼清順子学芸員)が参加した。今回のテーマは、「戦争と暴力の文化から平和と非暴力の文化への変容における博物館の役割」。「平和と人権のための博物館を創る」セッションにて、「日本の平和博物館と国際平和ミュージアムの課題と展望」と題して、当館のリニューアル以降の歩みを報告した。

丹波マンガン記念館を再開館するにあたり

丹波マンガン記念館事務局長 李順連

2011年6月26日に厳粛に執り行われた再開館式。

鉦山の神に開館の無事と安全の祈りを奉げる。

塵肺で亡くなった鉦山労働者たちの慰霊祭。

2億年前に海から山へと転じ、1930年くらいから丹波の山々では多くのマンガン鉦石が採掘された。そこには悲しい歴史が遺された。多くの支援者とともに私たちは今この悲しい歴史を乗り越え、後世に平和の大切さを繋いで行こうとしているのである。

丹波マンガン記念館は1989年に初代館長李貞鎬が私財を投じて家族だけで手作りで建設した。建てた理由はマンガンは昔、戦艦ヤマトや大砲の砲身などの軍需物資として大量に必要とされ鉦山で働いた多くの強制徴用された朝鮮人労働者や被差別部落の人が鉦石の粉塵を

吸って「塵肺」という職業病で命を落とした。その労働者たちの魂を肺塚として慰霊し、「病み捨てられてなるものか」という李貞鎬の一念で、この悲しい歴史が風化されないよう語り伝えるために建てられたのである。『ここはワシらの墓や』と李貞鎬が言い遺したこの記念館に是非一度足をお運びください。みなさまの五感で二億年の地底ロマンと、躍動した鉦夫たちの夢と苦悩を感じとってください。

●ご案内

開館日:毎週日曜日(金・土曜日は団体予約承ります)

開館時間:午前10時～午後4時

冬季休館:12月15日～3月15日(積雪のため)

入館料:大人 800円 小・中学生 600円 小学生未満 100円

ガイド:ご予約ください。

駐車場:100台まで無料駐車場あり

臨時休館:30mm以上の雨量または警報発令など

アクセス:毎週日曜日京都駅八条口より直通バス運行。(午前10:00発)詳しくはHPにて。予約要 ①往復バス+入館料3800円 ②往復バス+入館料+昼食+京北の里めぐり5800円

NPO法人丹波マンガン記念館事務局

Tel:075-681-0280 Fax:075-681-0281

E-mail: info@tanbamangan.or.jp

URL <http://www.tanbamangan.or.jp>

平和資料館・草の家:高知

事務局員 中内愛

3月から準備を始めた草の家の夏の恒例行事である「ピーススウェーブ」は、6月30日の「平和七夕まつり」に始まり、8月21日の「掩体コンサート」まで、各実行委員会の奮闘と、草の家会員はじめ多くの方々に賛同・支援していただき、今年も12の行事を無事に開催することができました。

6月30日から7月29日にかけての「第29回平和七夕まつり」では、高知市内京町・新京橋商店街のアーケードの天井いっぱい、平和への願いが込められた折り鶴、そしてメッセージ等がはためきました。中には東日本大震災のことに関連する応援メッセージもありました。今年、県内の小・中学校33校と、福祉施設18、その他の民主団体と合わせて計67連の鶴が舞いました。

7月2日から9日にかけては、「第33回戦争と平和を考える資料展」(高知空襲展)が高知市内の自由民権記念館で開催されました。来場者は一週間で約420人でした。今年テーマを「今、あなたに届けたい平和への想い」と題して、実行委員が10余の企画に分かれて資料や写真等をまとめて展示しました。広河隆一さんのチェルノブイリ原発事故後の写真展示もあり、人々が足を止めていました。全体の来館者は例年に比べ少なめでしたが、今年は夏休みを利用して小・中学生がたくさん来場し、アンケートの回答が去年より2倍近く増え、中でも10代の子どもの素直な感想がたくさん寄せられていました。

前後しますが、5月7日、草の家ホールにて「旧陸軍歩兵四十四連隊の弾薬庫等を保存する会」が発足されました。戦前、高知市の朝倉にある現在の高知大学朝倉キャンパスには陸軍歩兵四十四連隊がありました。その弾薬庫跡が今も独立行政法人国立印刷局高知出張所の敷地内に残っているのですが、以前からそこに勤めておられる方から遺跡の保存についての連絡をいただいております。同出張所の閉鎖を期に「保存と公開」を行政に訴えていく運動へ繋がりました。同26日には現地見学会が開か

れ、地区の住民ら含む35人余りが参加し、その日の午後、高知市長に要望書を提出しました。今に残る戦争遺跡は、あの時代を後世へ伝える物言わぬ語り部として大きな役目を担います。維持していくには民間の力だけでは難しいこともありますから、行政も一緒になって残していく運動へと発展させていきたいです。

岡まさはる記念長崎平和資料館:長崎

岡まさはる記念長崎平和資料館の主な活動(本年上半期)を報告します。

(1)「日本の近現代史」連続講座、第5回(1月8日):「大正デモクラシーと朝鮮・中国の独立運動」(講師、門更月さん)、第6回(2月12日):「宗教は良薬が毒薬か」(講師、原和人さん)、最終回(3月12日):「日本の近代とメディア」(講師、草野十四朗さん)を行ない、いずれも好評であった。本年も9月再開を計画中。

(2)1月22日:良心的兵役拒否のドイツ青年ジュリアン・ザンダー(Julian Sander)さんと市民との交流会。平和教育、歴史教育について活発な意見交換があった。

(3)3月4日:ベルリン応用工科大学のオイゲン・アイヒホルン(Eugen Eichhorn)教授の講演「ドイツ市民の反原発運動」を実施。福島原発事故の直前で啓発の意義絶大であった。事故後、ドイツは日本に滞在中の良心的兵役拒否青年全員を直ちに帰国させた。

(4)3月6日:佐世保での国際女性デー学習会において、「韓国併合100年と『慰安婦』問題を考える」と題して理事長が講演。日本の責任を否定する会場発言に反論続出。

(5)6月6日:南京に学生を派遣する「日中友好・希望の翼」の募集要項を記者発表。メディアは好意的に取り上げたが、今年も応募者なし。残念。市民有志だけで8月訪中。

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen>

Tel & Fax: 095-820-5600 (文責・理事長)

ひめゆり平和祈念資料館:沖縄

学芸課 仲田晃子

2011年6月に、当館の運営母体となっている財団が公益財団法人に移行し、それに伴い、名称を「財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会」から、「公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団」(略称:ひめゆり平和祈念財団)に変更しました。制度上の制約で「同窓会」の文字がなくなりましたが、新たに「平和祈念」を名称に据えました。

2011年4月1日には、展示室内の改修工事を終え、新しくなった展示室で来館者をお迎えしました。今回は、混み合うことが多かった証言映像の部屋のスペースを拡げ、それに伴い、いくつかのパネルを新設しました。落ちついて証言に向き合っていただけの空間になったのではないかと思います。

2011年6月23日、沖縄「慰霊の日」に、『絵本ひめゆり』を刊行しました。ひめゆり学徒の生存者と、学芸員、イラストレーターの三田圭介さんとでやりとりをしながら2年半かけて制作したものです。多くのマスコミにも採り上げていただき、発売当日には朝早くから購入に訪れる方や、全国各地からの問い合わせの電話が多くありました。お孫さんにと買っていかれる方や、絵本を読み聞かせしている方、また数冊まとめて購入される方もいらっしゃいました。大きな反響をいただき、驚くと同時に、子どもに伝えるためのツールがこれほどまでに求められていることを知ることになりました。

市民ネットワークニュース

本別町歴史民俗資料館:北海道

企画展「わがまちの7月15日展 本別大空襲」が2011年7月7日～8月20日の会期で開催されました。開町110年の節目に当たる2011年は、まちの歴史を改めて振り返ろうと、企画展のテーマを、1945年7月15日の「本別大空襲」を語り継ぐことに設定しています。空襲で溶けたガラス、爆弾の痕跡が残る家具、防空ずきん、もんぺ、空襲死者の遺影などを展示し、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えています。企画展と連動し、2011年8月14日に町中央公民館で、シンポジウム「明日に語りつぐ平和のつどい」が開かれ、講師真打ちの神田甲陽さんの講談や女優の日色ともゑさんによる朗読がありました。

Tel:0156-22-2141

<http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/living/culture/archives.html>

太平洋戦史館:岩手

太平洋戦史館初代会長の佐々木市男氏が逝去されました。海外残留150万柱の戦没者がいます。太平洋戦史館では1999年からこれまで千人を超える日本兵の帰還のために努力してきました。詳細は「太平洋戦史館だより」で知ることができます。(81号より)

Tel: 0197-52-3000

仙台市戦災復興記念館:宮城

「戦災復興展」が2011年7月8日～11日の会期で開催されました。1945年7月10日未明に仙台市内はアメリカ軍爆撃機B29による空襲を受けました。2時間で市の中心部は焦土化して1066人が死亡しました。7月10日は平和の有り難さを思いだす日となっています。地下展示ホールでは、「戦中・戦後の市民生活」・「仙台空襲と復興」・「小学校の戦災と復興」に関する写真や戦時中の生活用品・遺品などを展示していました。4階会議室では、墨絵「7.10の譜」や仙台空襲犠牲者氏名板を展示し、「戦中・戦後の市民生活」ほかのビデオを上映しました。

Tel: 022-263-6931

<http://www.city.sendai.jp/aoba/sensai/>

水戸市立博物館:茨城

1945年の水戸空襲から66年たった2011年8月2日、水戸市は初めて、同市平和記念館や同市立博物館、水戸芸術館の市内3館の共同イベント、東日本大震災復興記念イベント「ぴ～すプロジェクト」を始めました。これは戦争を知らない世代に地元の戦争体験を伝え、戦争と平和を考え、「戦争の記憶」を受け継いでいく機会とすることがねらいです。市立博物館や平和記念館での水戸空襲の常設展の他に、市立博物館では8月2日、当時、女学校2年の大山好子さんと元小学校教員の塩谷みどりさんの2人の女性が空襲の体験を語りました。当時食べられたすいとんも提供されました。8月14日には空襲体験談、紙芝居「はだしのゲン」の上演がありました。

Tel: 029-226-6521 Fax: 029-226-6549

<http://business4.plala.or.jp/shihaku1/>

埼玉県平和資料館:東松山市

収蔵品展「写真雑誌に見る世相」が2011年3月19日～5月15日の会期により、企画展示室で開催されました。戦前～戦後期のマスメディアが人びとに与えた影響は、非常に大きいものでした。なかでも「写真雑誌」は見る人に強い印象を与え、その報道性や記録性は貴重なものでしたが、「写真＝真実」と受け止められがちであり、また戦時中は不都合な事実が詳しく報じられることもなかったため、結果として人びとを戦争協力に導くことになりました。今回の展示では、資料館の収蔵資料の写真雑誌から、『アサヒグラフ』・『写真週報』・『週刊少国民』の三誌を中心にして、大正末期～昭和戦後期にかけての世相の変遷や人びとの暮らし、戦争報道、戦時下の子どもたちなどについて紹介していました。

テーマ展Ⅲ「世界の平和と人々のために－自治体の取り組みを中心にして」が2011年2月26日～5月15日の

会期により、ギャラリーコーナーで開催されました。

コラム展示「手紙がつなぐ家族の絆」が常設展示室の国民学校の中の展示ケースで特別公開され、昨年の夏にNHK総合テレビで放映された「戦地からの手紙」(出演:上川隆也・森田美由紀、里見浩太郎)で朗読された手紙の一部を展示していました

テーマ展「戦争と動物たち」が2011年7月16日～9月4日の会期により、企画展示室で開催されました。戦争は人間だけでなく、動物たちの世界にも大きな影響を及ぼしました。軍馬や軍犬、伝書鳩のように戦地で戦った動物がいる一方で、毛皮用や食肉用として供出された動物もいました。動物園では、空襲の際の逃亡を防ぐなどの理由で、猛獣が処分されました。また、新兵器開発のための実験台となった動物もいました。展示では、動物と戦争との関わりや、犠牲になった動物たちの実態に焦点をあて、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えていました。

展示構成は以下の通りで、展示点数は104点です。

プロローグー遊びと動物たち

動物はいつも人間の身近にあり、ともに暮らしてきました。ここでは、戦前～戦中の、「のらくろ肉弾中隊」などの紙芝居、「へいたいさん双六」などの双六、「動物漫画大会かるた」などのかるたをはじめ、子どもの遊びに登場する動物たちを紹介していました。

1. 戦争と動物園

(1)動物園はワンダーランド

(2)犠牲になった動物たち－猛獣処分

上野動物園は1882年に日本で最初に開園した動物園です。東京名所の一つとして大変な人気を集めていましたが、1941年の太平洋戦争開戦以降、次第に戦争が激しくなると、空襲の際に逃亡の恐れがあるなどとして、ライオンなどの猛獣や、ゾウなどの大型動物が殺処分されました。ゾウをはじめ動物園の動物たちの悲劇は、絵本や映画などによって現在も語り継がれています。戦時処分ライオンの剥製などを展示しています。

2. 戦う動物たち

(1)軍馬

(2)軍犬

(3)軍鳩

戦場で戦う動物もいました。軍馬・軍犬・軍鳩＝伝書鳩です。これらの動物を「軍用動物」といいました。動物が勇敢に戦ったという美談が盛んに宣伝され、教科書にも登場しました。なかには、人間の兵士と同様の勲章を与えられる動物もいました。これら動物たちのほとんどは、日本に帰ることができませんでした。軍馬の馬具、兵隊人形「軍用犬と兵士」、兵士・軍馬・軍鳩の柄の着物、紙芝居「小さい伝令使」などを展示しています。

3. 利用された動物たち

(1)供出された動物たち

(2)陸軍登戸研究所

供出という形で戦争に協力させられた動物もいました。軍服の毛皮用や食用としてウサギの飼育が奨励され、狂犬病予防や毛皮用として飼い犬も供出されました。また、陸軍登戸研究所では、新兵器開発のための動物実験がおこなわれていました。隣組回報「犬の献納運動」、兎の飼育奨励ポスター、動物実験の様相がわかる書類(明治大学平和教育登戸研究所資料館蔵)などを展示しています。

エピソード—動物園ふたたび—

1945年8月、戦争は終わりました。動物の多くを失った動物園でしたが、少しずつ復興に向けて歩み出しました。ここでは、動物園の復興の様子や、埼玉県の動物園などを紹介しています。サン写真新聞「ネール首相が贈った象と吉田茂」、写真「大宮の動物カーニバル」などを展示しています。

図録を刊行しています。

関連イベントとして、戦時中の体験を聞く会が2011年8月14日に開かれました。関連の映画会が開かれ、7月23日には「象のいない動物園」を、7月30日には「火垂るの墓」と「はしれリユウ」を、8月13日には「硫黄島からの手紙」をそれぞれ上映しました。

Tel: 0493-35-4111 Fax: 0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

東京大空襲・戦災資料センター:江東区

『ビジュアルブック 語り伝える東京大空襲』全5巻が2011年3月5日に完結しました。刊行記念パネル展「図表に見る東京大空襲」が、2011年3月2日～27日の会期により、2階会議室で開催されました。このパネル展では、『ビジュアルブック 語り伝える東京大空襲』に掲載された図表をパネルにして展示しました。内容構成は、東京大空襲、世界の空襲の歴史、日本の戦争、空襲後の諸問題、平和のための博物館の紹介の5テーマでした。

「東京大空襲を語り継ぐつどい—戦災資料センター開館9周年」が2011年3月5日に江東区亀戸のカメリアホールで開かれました。海老名香葉子さんの講演「町も家も家族みんなを奪ったあの惨禍を忘れてならじ」、東京都立両国高校附属中学の東京大空襲をテーマとした英語劇の取り組みの紹介、映像で振り返る資料センターこの1年、証言映像作品「片隅の祈り—八百霊地藏を守る」の上映、早乙女勝元館長の話がありました。

戦争災害研究室では、2011年度～2013年度にかけて、「戦争末期の国策報道写真資料の歴史学的研究—国防写真隊と東方社を中心に」(研究代表者・山辺昌彦)のテーマで科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(基盤研究(C)))の交付を受けることになりました。15

年戦争末期に、東方社や日本写真公社の国防写真隊などが軍や政府の要請で撮影した、空襲被害、国内戦時体制、占領地支配などに関する写真が、『写真週報』『フロント』などに掲載されたもの以外にも大量に残されています。この研究ではこのうち、東方社の小石川事務所に残され、東京大空襲・戦災資料センターに寄贈されたネガをデジタル化し、何が写っているかの調査し、被写体の特定をして活用できるようにすることを第1の目的としています。第2に、東京大空襲・戦災資料センターが所蔵する日本写真公社の国防写真隊などの写真と東方社撮影の写真との関連を明らかにすることも研究課題としています。第3に、日本写真公社以外の国防写真隊撮影の写真、写真家個人の遺族の元に残された空襲の被害などの写真、東京以外の地域において日本陸軍の要請で撮影された空襲の被害の写真などとの比較調査もして、東方社、日本写真公社、国防写真隊、それぞれが果たした歴史的役割を明確にすることも研究の目的としています。

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

<http://www.tokyo-sensai.net/>

昭和館:東京・千代田区

特別企画展「ポスターに見る戦中・戦後」が3階の特別企画展会場で開催され、「第1期:公共事業・社会事業を中心として」は2011年3月19日～4月17日の予定で、「第2期:商業広告・文化催事を中心として」は4月19日～5月15日の会期で開かれました。広告媒体としてのポスターは明治時代末に登場し、欧米の製版・印刷技術やデザインを取り入れながら発展していきます。しかし戦中には広告の対象となる多くの商品が統制のために姿を消したことから、それに伴い商業広告も少なくなり、政策や情報伝達の手段として重視されます。戦争が終わると、新しい製版・印刷技術を用いたポスターも登場します。本展では館蔵のポスター約180点を展示し、昭和初期から戦中・戦後にかけての政策や広告などの内容や、デザインや紙質などの移り変わりを感じてもらうために開かれました。図録を刊行しています。

特別企画展「戦後復興までの道のり—配給制度と人々の暮らし」が2011年7月23日～8月28日の会期により、3階の特別企画展会場で開催されました。1937年、日中戦争が始まると政府は戦争遂行のため、「モノとカネ」を統制し、企業は自由な生産販売や価格の設定も制限されました。さらに戦争の長期化に伴い、人びとの消費も統制され、配給切符・通帳がなくなるとは、物品を購入できなくなりました。戦争が終わっても、さらに苦しい生活が続きました。配給は遅配や欠配が続き、非合法的な買い出しや闇市で、法外な値段で生活必需品を入手するしかありま

せんでした。しかし、1947年から順次統制が撤廃され、1956年の『経済白書』では「もはや戦後ではない」と記されました。本展では、実物資料・写真・手記などにより、戦争中による物資不足のなか、どのような暮らしのやりくりをしたか、またどのように終戦直後を生きぬき、復興したかを紹介していました。

展示構成は以下の通りです。

1. 統制のはじまり

1937年7月に日中戦争が始まると、もともと金属や燃料・皮革・綿花などの重要資源に乏しく輸入に依存していた日本は、これらを優先的に軍事物資に振り分けました。国家的見地から、輸入力と国内の供給力の限度内で「物資動員計画」が立案され、それに沿って配分されました。また、軍需景気とインフレーションにより物価が上昇したので、政府は指定した物品に対し1939年9月18日時点で、強制的に価格を停止させました。さまざまな質、規格がある10万点にもおよぶ商品一つひとつに「公定価格」が設定され、販売者は自由に価格を決めることができなくなりました。

2. 物資不足による耐乏生活

戦局が長期戦の構えを見せ始めた1940年6月から、6大都市（東京・大阪・横浜・名古屋・京都・神戸）で砂糖・マッチの切符配給制が実験的に実施されました。これは切符の提示によってのみ物品を購入することができるというもので、同年11月には全国で実施され、次第にその品目は米などの主要な食糧、その他の食料品、衣類、木炭などの日用品にも及びました。しかし、年を追うごとに計画的な配給ができなくなり、配給切符や通帳があっても配給所には品物が無いという事態がおきるようになりました。さらに1944年11月以降、主要都市への空襲が本格化して被害が全国的に拡大し、混乱に拍車がかかり、食糧の配給状況は悪化の一途をたどりました。

3. 混乱の回復

戦争が終わり、空襲におびえることはなくなりましたが、物資不足により人びとの暮らしは戦中を上回り、一層苦しいものとなりました。食糧や生活必需品などは引き続き配給制が取られましたが、遅配や欠配が続き、都市部では餓死者も出たほどでした。人びとは正規の配給量だけでは飢え、特に都市部の人びとは、農村部への買い出しに行ったり、闇市で法外な値段で入手したりするほかにありませんでした。また、衣類は物々交換の際に食糧と交換され、破れても丁寧に繕いながら着用するのが一般的でした。政府はこの食糧危機に対して、連合軍司令部に食糧輸入の承認を求め、1946年2月にアメリカ軍の余剰食糧である小麦粉が引き渡されました。これを期にユニセフや国際NGO、世界各国からさまざまな援助がおこなわれ、危機的状況を回避することができました。

4. 経済の復活

世の中が落ちつきを取り戻していくと、食料品の生産量も増加し、厳しい統制下に置かれた物品も市場に出まわることになりました。そのため統制する必要もなくなり、再び自由に物品を売買することができるようになりました。1956年の『経済白書』には「もはや戦後ではない」と記され、日本は短期間に復興をとげました。

図録と出品目録を作成しています。

Tel:03-3222-2577 Fax:03-3222-2575

<http://www.showakan.go.jp/>

復興記念館:東京・墨田区

「戦災写真パネル特別展」が2011年2月22日～3月22日の会期により、2階で開催されました。石川光陽が撮影した東京大空襲を中心とした写真パネルを展示していました。

TEL:03-3622-1208

<http://www.tokyoireikyokai.or.jp/kinenkan.html>

すみだ郷土文化資料館:東京

企画展示「戦争孤児—東京空襲と残された子どもたち」が2011年2月19日～4月24日の会期により、3階の展示室で開催されました。第二次世界大戦により、両親をなくした戦争孤児が多数生み出されました。しかし、他の戦争体験者に比べ、孤児たちの証言が一般に伝えられることは極めて少なく、その実像はほとんど知られていません。資料館ではこれまで、空襲体験がもたらす心の傷ゆえに証言できない、という多くの方がたに接してきました。しかし、孤児の証言記録が乏しい理由には、さらに複雑な背景があります。いわれのない偏見と無理解に根ざした放置・差別は、孤児たちが口を閉ざす大きな要因になってきました。東京の戦争孤児はいかにして発生し、戦後、どのように生きたかを、孤児たち自身の証言・記録・写真・絵画の展示を通して、紹介していました。

Tel:03-5619-7034 Fax:03-3625-3431

http://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/siryoku/kyoudobunka/index.html

中央区立郷土天文館:東京

特別平和展「あの日の記憶 戦争のなかの区民生活」が2011年2月25日～3月27日の会期により、特別展示室で開催されました。中央区は1941年から1945年の太平洋戦争の時代に、15回の空襲を受けており、人びとは食料や生活用品の欠乏により不自由な生活が強いられました。また、商人の町、中央区の人びとは勤労働員により軍需工場で働き、空襲の被害を避けるため、子どもた

ちは地方に疎開しました。こうした戦争時の苦しい体験も、戦争世代の高齢化などに伴い、語ることのできる人が減っており、戦争体験を語り継ぐ重要性から、今回の特別展が企画されました。「区内を襲った空襲」・「銃後の生活」・「戦争と報道」・「焼け跡からの出発」の4つのテーマにわけて、区民や元区民などから寄贈された、戦争当時の文書、日用品、雑誌、新聞などの資料を展示していました。

同時に、区民ギャラリーでは、「ヒロシマ・ナガサキ 原爆写真パネル展」を開催し、広島・長崎の原爆被害や現在の核兵器の状況を分かりやすく説明した「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル」を展示していました。

Tel:03-3546-5537 Fax:03-3546-8258
<http://www.city.chuo.lg.jp/sisetugaido/timedomeakashi/index.html>

豊島区立郷土資料館:東京

春の収蔵資料展が2011年4月1日～6月22日の会期により、収蔵展示室で開催されました。館の収蔵品を、豊島区の村絵図、むかしのくらしと家電製品、番付さまざま、戦時下のくらしと4・13空襲などのテーマで展示していました。戦時下のくらしと4・13空襲では、石川光陽撮影による豊島区の空襲被害や防空訓練などの写真、焼夷弾拾い、鉄帽でつくった鍋、リュクサック、隣組の湯飲み茶碗、婦人会の扇子などの戦時下の生活用品を展示していました。

Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271
<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>

渋沢史料館:東京・北区

収蔵品展「渋沢栄一と孫文」が2011年6月11日～9月19日の会期により、2階の常設展示室書画コーナーで開催されました。本年は、1911年10月、中国湖北省武昌で辛亥革命が勃発してから、ちょうど100周年の記念の年にあたります。この革命により、臨時大総統となった孫文により中華民国樹立が宣言され、清国が倒れました。渋沢栄一は、1913年2月、孫文と東京ではじめて出会い、ともに日中経済提携を推進しようと日中合弁会社の設立を進めるなど、その後、深い親交をつづけていきます。しかし、中国情勢が混迷するなか、ふたりが描いた日中経済提携の姿も揺れ動きます。

栄一と孫文の交流を通して、栄一が辛亥革命後の中国にどのように対応したのか、どのような日中関係を思い描いていたのかを史料館の収蔵資料を通して伝えています。日本と中国との関係や国際平和について考えるきっかけにするために開かれたものです。

Tel:03-3910-0005
<http://www.shibusawa.or.jp/museum/index.html>

八王子市郷土資料館:東京

コーナー展「戦争と子どもたち」が2011年7月7日～8月31日の会期により、2階展示室で開催されました。日中戦争から太平洋戦争へ拡大し、終戦に至るまでの8年間は、国家総力戦の時代でした。戦時中、子どもたちも、将来お国のために役立つ「少国民」となるように、男の子は兵士となって戦場で戦い、女の子は銃後の家庭を守る立派な大人になるように教育を受けました。戦時中の子どもたちの生活を八王子に残る資料から振り返っています。今回の展示では、戦争の始まり・太平洋戦争・国民学校・八王子空襲のテーマにわけ、当時の生活や教育、学童疎開などの資料を展示しています。このコーナー展は、戦争の悲惨さと平和の大切さを考えるきっかけとするために開かれたものです。図録を作成しています。

ボランティアによる戦争体験を語る会が2011年7月27日に開かれ、八王子市郷土資料館ガイドボランティアが、語り紙芝居「八王子空襲」など通して戦時下の体験を伝えました。

戦争体験講座「八王子空襲と戦時下の生活一体験者の語りを聞く」が2011年8月14日に開かれ、当時、第一国民学校の訓導(先生)と都立八王子工業の生徒であった2人が、戦時中の生活や八王子空襲の体験談を話しました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326
<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kyoiku/rekishibunkazai/kyodoshiryokan/index.html>

福生市郷土資料室:東京

企画展示「平和のための戦争資料展」が2011年7月16日～9月25日の会期で開催されました。郷土資料室では、毎年終戦の日に合わせて戦争関連資料の展示会を開催しています。福生に残された戦争関係資料から、平和について再認識することを目的とした展示会です。今回の展示では、日清・日露戦争から太平洋戦争に至るまでの近代戦争にスポットをあて、戦時中の生活・教育資料、軍事郵便と関係ポスター、配給切符・通帳、債券、供出関係資料、国民服、セーラー服、軍装品、音楽家・東浦栄二の出征関係資料、多摩飛行場関係資料、防空日誌・警防日誌・伝単・爆弾破片・防毒面・灯火管制具などの空襲・防空関係資料、おもちゃ、紙芝居、墨塗り教科書、アメリカ軍家族向けハウス関係資料などを展示し、福生と戦争の歴史について考えるものとなっています。

Tel:042-530-1120 Fax:042-552-1722

<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/>

板橋区立美術館: 東京

館蔵品展「戦争と日本近代美術」が 2011 年 5 月 14 日～6 月 19 日の会期で開催されました。日本は 1931 年の満州事変から 1945 年の終戦まで 15 年もの間、戦争期でした。画家たちの中には 1938 年の国家総動員法、翌年の国民徴用令により、兵士として従軍し、軍による「作戦記録画」制作に携わった人もいました。1941 年に画家の福沢一郎と詩人で美術評論家の瀧口修造がシュルレアリスムと政治との関わりについて治安維持法違反の嫌疑で逮捕されると、1930 年代に盛り上がりを見せていたシュルレアリスム風の絵画は影を潜めました。その頃には絵具などの画材も配給制となり、画廊もつぎつぎと閉鎖され、画家たちの制作や発表の場も制限を受けました。戦地や空襲により亡くなった画家もいます。戦後もまた戦争体験やそれに対する画家の考えをもとに制作が続けられています。本展では、板橋区立美術館のコレクションの中から戦中に描かれた作品から戦後の基地問題を取り上げた作品までを、画材の配給票などの資料と共に紹介していました。「戦争」を日本の芸術家たちがどのように考え、とらえたかを考える展覧会です。

また特集展示として、末松正樹による戦中から晩年までの作品をまとめて紹介していました。1939 年に渡仏した末松は、戦中にフランスで捕虜となりながらもデッサンに励み、戦後に帰国した後も抽象的な絵画を発表し続けました。今回は、板橋区立美術館のコレクションの中から末松がフランスで軟禁中に描いたデッサンと帰国後の絵画作品を紹介していました。

解説資料を作成しています。

Tel: 03-3979-3251 Fax: 03-3979-3252

<http://www.itabashiartmuseum.jp/art/>

東京都写真美術館: 目黒区

コレクション展「こどもの情景－戦争と子どもたち」が 2011 年 5 月 14 日～7 月 10 日の会期で開催されました。この展示会では、フォト・ジャーナリズムの全盛期であった戦中から戦後の時代を中心に、国内外のドキュメンタリー写真家たちが子どもたちへ向けたまなざしをたどっています。浜谷浩、田中一郎、吉崎一人、木村伊兵衛、菊池俊吉、藤本四八、宮武東洋、田村茂、林忠彦、山端庸介、島田謹、樋口忠男、牧田仁、石井幸之助、影山光洋、中村立行、田沼武能、臼井薫、東松照明、細江英公、土門拳、熊谷元一、臼井薫、長野重一、岡村昭彦、沢田教一、大石芳野、土田ヒロミ、中村梧郎、長倉洋海、W.ユージン・スミス、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、ドロシア・

ラング、ロバート・キャパ、カール・マイダンスの作品 160 点を展示していました。

「江成常夫写真展－昭和史のかたち」が 2011 年 7 月 23 日～9 月 25 日の会期で開催されました。1936 年に神奈川県に生まれ、毎日新聞東京本社の写真記者を経て、1974 年よりフリーランスの写真家として活動する江成常夫。太平洋戦争に翻弄された国内外の人びとや遺産を克明に記録し続けることで、日本人の現代史に対する精神性を問い続けてきました。本展では代表作である「鬼哭の島」・「偽満洲国」・「シャオハイの満洲」に、未発表最新作を含む「ヒロシマ」・「ナガサキ」を加えた 112 点を出展し、現代日本を生きる私たちの歴史そのものを概観していました。

構成は次の通りです。

第1部 鬼哭の島

フィリピンのレイテ島、パラオ諸島のペリリュー島、北マリアナ諸島のサイパン島、テニアン島、そして硫黄島、沖縄…。太平洋戦争の惨劇の島を巡り、江成がレンズを通して向かい合った声なき人たちとその情景を描きます。

第2部 偽満洲国

関東軍が掲げる理想の裏で、おびたしい数の人たちに血と涙を強いながら消滅した「満洲国」。江成は 1981 年春から 15 年間にわたって旧満洲(現・中国東北部)の各地を巡り、日中両国民の精神的落差と経てきた時間の事実を描写しました。

第3部 シャオハイの満洲

太平洋戦争末期、数千人の戦争孤児が旧満洲に置き去りにされました。1981 年、江成は中国に渡り、人民服を纏いながら自己存在を問う孤児たちと対面。この作品には昭和という人間性不在の光景が深く刻まれています。

第4部 ヒロシマ

戦争孤児と、孤児を生んだ「満洲」と向き合ったからこそ、その地に立つことができたヒロシマ。この作品は太平洋戦争の因果を明示するとともに、癒えることのない被爆者の痛みを通して、人間の罪の深さを語りかけます。

第5部 ナガサキ

医学者・永井隆博士の崇高な心に惹かれ、長崎を撮影してきた江成。消えることのない被爆者の心と体の傷、被爆地のモノとドロが溶け合った物体。その一つひとつが家族の絆と、繰り返してはならない罪業を訴えかけています。

図録を刊行しています。

Tel: 03-3280-0099 Fax: 03-3280-0033

<http://www.syabi.com/>

川崎市平和館:神奈川

川崎市平和館・公文書館主催の「川崎大空襲記録展—私たちのまちに「空襲」があった」が2011年3月12日～5月8日の会期の予定で、1階の屋内広場で開催されました。

「川崎大空襲」は、1945年4月15日午後10時3分に空襲警報が発令され、ほとんど同時に爆撃が開始されました。この日の攻撃目標は、川崎市や東京南部で、アメリカ軍の記録によれば川崎市に対して、B29爆撃機194機が来襲し、焼夷弾1万2748発(1072トン)、高性能爆弾162発(18トン)、破砕性爆弾98発(20トン)を投下しています。この爆撃によって、川崎市の中心部は市役所を残して一面の焼野原となりました。大空襲の被害は、全半壊家屋3万3361戸、同工場等287、罹災者は10万人を超えています。また、川崎市が空襲で出した死者約1000人、負傷者約1万5000人の大半は、この大空襲によるものとみられます。今回は、横浜市の「横浜大空襲」(1945年5月29日)も紹介していました。改めて平和の尊さについて考えるために開かれました。

Tel: 044-433-0171 Fax: 044-433-0232

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25heiwa/home/heiwa/home/index.htm>

長岡戦災資料館:新潟

長岡空襲殉難者遺影展・焼失地図展が2011年7月1日～8月31日の会期により、3階の学習室で開催されました。長岡市ではアメリカ軍の爆撃機による1945年8月1日の無差別爆撃で1480人が犠牲になりました。長岡空襲で亡くなった方がたの遺影、戦災前の校區別住宅地図に、空襲による焼失状況などを色分けした戦災焼失地図を展示しました。

Tel: 0258-36-3269 Fax: 0258-36-3335

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/sensai/siryokan.html>

新潟大学旭町学術資料展示館:新潟市

「戦争と美術—絵葉書に見る戦争」が2011年4月13日～6月30日の会期で開催されました。太平洋戦争開戦70年の年に当たることから、新潟大学副専攻の平和学の授業趣旨に呼応して「戦争と美術」の問題について考えるために開かれた企画です。教育学部所蔵の洋画の中にある宮本三郎、田村孝之介という著名な従軍画家の作品に添えて、戦争アートの絵葉書を中心に戦時中開催された展覧会の図録を展示しました。

Tel&Fax: 025-227-2260

<http://www.lib.niigata-u.ac.jp/tenjikan/>

中之口先人館:新潟

「ウチテシヤマム—軍国への道—「写真週報」より」が2011年5月14日～6月18日の会期により、ギャラリーで開催されました。

Tel: 025-375-1112 Fax: 025-375-1114

<http://www4.ocn.ne.jp/~naka-vil/senjinkan/senjinkan.html>

石川県立歴史博物館:金沢

春季特別展「くらし&娯楽の大博覧会—昭和ヒストリー1926～1989」が2011年4月23日～6月5日の会期により、特別展示室、第4展示室で開催されました。

恐慌から長い戦争に突入し、戦後復興から高度経済成長を経て経済大国へ…昭和はまさに激動の時代でした。本展覧会では昭和時代を、戦時中の代用品や戦後の家電といったくらしの道具、そして映画ポスターやレコード、おもちゃなどの娯楽資料から振り返っていました。

展示構成は以下の通りです。

1. 戦前・戦中のくらし

炭火アイロン・箱膳・羽釜・そろばん・汽車土瓶・国民服・慰問袋・代用品

2. 戦後のくらし

パン焼き器・木製冷蔵庫・洗濯板・洗濯機・ミシン・自転車・黒電話・蚊帳

3. 戦前・戦中の娯楽

蓄音機・ラジオ・映画ポスター・芝居番付・人形・双六・愛国カルタ

4. 戦後の娯楽

白黒テレビ・映画ポスター・雑誌・ダッコちゃん・ホッピング・キャラクター玩具

*体験ゾーン「昭和を遊ぶ」

図録『くらし&娯楽の大博覧会—昭和ヒストリー1926～1989—』を刊行しています。

Tel: 076-262-3236

<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/>

ゆきのした史料館:福井

原発問題住民運動福井県連絡会は、7月11日から毎月11日を「原発ゼロ」市民更新の日と定め、集会やパレードを行っています。

その他福井空襲に関する記事など「ゆきのした」という通信で紹介されています。

Tel: 0776-52-2169

<http://www.yukinoshita.net/>

国連軍縮会議開催記念 特別企画「戦争と平和展」:長野・松本

2011年7月27日～29日まで、松本市において第23回国連軍縮会議がおこなわれることを記念し、国連軍縮会議開催記念 特別企画“戦争と平和展”が2011年7月2日から8月21日の会期により、松本市立博物館ほか・松本まるごと博物館各施設で開催されました。

内容は以下の通りです。

- ・松本市立博物館「学校に残る戦争のキオク」
- ・旧開智学校「子どもと戦争ー開智国民学校の資料から」
- ・歴史の里「写真でみる巢鴨プリズン」
- ・窪田空穂記念館「詩歌でたどる戦争と平和への想い」
- ・はかり資料館「平和をはかる」
- ・旧制高等学校記念館「戦時下の旧制高等学校」
- ・時計博物館「旧陸軍陸地測量部の置時計」
- ・考古博物館「原始・古代の狩猟具と武器から平和を考える」
- ・馬場家住宅「馬場称徳展」
- ・山と自然博物館「里山に残る黒塗りにされた白壁」

松本市美術館:長野

「第23回国連軍縮会議 in 松本」開催記念「土門拳の昭和ー今、平和への祈りを込めて」が2011年7月16日～9月4日の会期で開催されました。

土門拳は、1909年に山形県飽海郡酒田町(現酒田市)に生まれました。1935年に名取洋之助主宰の日本工房に入社し報道写真家として活動を始め、日本人の暮らしや文化をテーマとするスタイルを築いていきます。終戦後は、敗戦国日本の現実に真正面から向き合いながら、「絶対非演出の絶対スナップ」を唱え、リアリズム写真を追求しました。のちに脳出血により右半身不随になりながらも精力的な取材を続け、鋭い眼で対象を凝視し執念で撮影する姿は「鬼の土門」と称されました。本展覧会は、土門拳が追ったテーマを一望しながら、その足跡をたどります。激動する昭和の群像、著名人の肖像、仏像や古寺、風景など日本の美…、被写体に迫り続けた45年にわたる作品から約300点を紹介していました。

関連して、写真家で土門拳記念館理事の藤森武さんの記念講演会「弟子から見た写真界の巨人・土門拳」が2011年7月30日に多目的ホールで開かれました。

Tel:0263-39-7400 Fax:0263-39-3400

<http://www.city.matsumoto.nagano.jp/artmuse/p7/p7-index.html>

岐阜市平和資料室:岐阜

「子どもたちに伝える平和のための資料展」が2011年7月19日～29日の会期で開催されました。資料室は多くの子どもたちに平和の尊さを知ってもらうために、毎年平和のための資料展を開催しています。「岐阜空襲」では1945年7月9日深夜から10日未明にかけて米軍爆撃機B29が焼夷弾を投下し、860人に及ぶ犠牲者が出ました。今年の「子どもたちに伝える平和のための資料展」は、「米軍の空襲はどのように行われたのか」「空襲直後の岐阜市」「再生する街と市民たち」の3部構成で、市と岐阜空襲を記録する会が米国立公文書館や報道機関などから入手した焼夷弾投下後の写真17枚を中心に、パネル、イラスト、空襲2日後の7月12日に毎日新聞、朝日新聞、岐阜新聞が合同で発行した「岐阜合同新聞」など二十数点を展示して戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えていました。また、今年度市民から寄せられた平和の折り鶴も展示していました。

http://gakuen.gifu-net.ed.jp/~contents/tyu_shyakai/jinbutu/sensou/siryousitu.htm

揖斐川歴史民俗資料館:岐阜

企画展「ふるさとの戦争と暮らし」が2011年7月20日～9月18日の会期で開催されました。ここ4年ほど、夏休み期間に合わせておこなっている企画展です。揖斐川町は空襲こそ受けませんでした。働き手はほとんどが出征してしまい、銃後を守るのは女性と子どもしかいませんでした。物資や食糧も日毎に乏しくなり、金属製品の供出に伴って日用品も不足していきました。今回の展示では、金属製品のかわりに陶器や木材で作られたさまざまな代用品を展示している他、戦時下のポスターや新聞・雑誌、戦地からの手紙、慰問袋に入れて戦地へ送られた子どもたちの慰問文集、出征の祝い幟、国民服、出征兵士に贈られた必勝祈願の寄せ書きなど、銃後の生活を物語る多くの資料を展示しています。戦闘に直接関連した資料としては、日露戦争から太平洋戦争にかけての軍服、兵士が身に着けた装備品などの他、爆撃機と戦闘機に使用した木製のプロペラ2枚を展示しています。日露戦争の際に日本海軍によって沈められたロシア軍艦、ノービック号の舷側鋼板も展示しています。沈没したノービック号を引き揚げ、戦勝記念にその舷側鋼板を小分けにし、国内各地の基地に配布したらしく、壁面に飾れる盾のような造作になっています。こうした多くの展示資料を通じて、戦争が暮らしにもたらした影響や平和の貴さを考えるために、今回の展示が作成されました。

Tel:0585-22-5373

http://dac.gijodai.ac.jp/vm/virtual_museum/sanpo/12/index.htm

下呂ふるさと歴史記念館:岐阜

夏季企画展「寄贈品から見た戦時下の日本と下呂」が2011年7月9日～9月4日の会期で開催されました。私たちの記憶から次第に遠ざかる太平洋戦争(1941～1945)当時の日本。戦争は日常生活に大きな影響を及ぼしました。戦時下に組織化された隣組や隣保班は回覧板による伝達、防空活動、配給物資の分配をおこないました。また、子供達への教育には、軍国主義が色濃く反映されました。2010年度に市民から寄贈された資料を展示し、現代とは違う当時の様子を振り返るものです。展示品の数は55点です。テーマは、「戦時下に政府が発した強要政策」・「戦時下の政府通達を徹底した隣組と回覧板」・「長期化する戦争のため困窮した国民の生活」・「銃後の生活を守る女性と子供」・「故郷への思いを募らせる戦地の姿」の5つです。展示で特に強調した点は太平洋戦争突入後、物資不足が露わになると、政府が発する政策と相俟って、人びとの生活は日増しに困窮していきましたが、政府・物資・人間の3つの側面から、戦時下の様子を見つめなおす点でした。

Tel: 0576-25-4174 Fax:0576-25-4174

<http://www.city.gero.lg.jp/gyousei/view.rbz?of=1&ik=0&pnp=14&cd=428>

静岡平和資料センター:静岡市

企画展「つくられた愛国少年・少女ー戦争と子どもの世界」展が2011年4月8日～8月28日の会期で開催されました。かつての戦争の苦難の状況下で、当時の子どもたちがおこなっていた学業、教練、遊びなどの日常生活をとり上げ、戦時中の日本がどのような社会であったかを明らかにしていました。

Tel:044-433-0171 Fax:044-433-0232

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

桜ヶ丘ミュージアム 豊川市郷土資料展示室:愛知

「豊川海軍工廠展・豊川海軍工廠近代遺跡調査速報展」が2011年7月16日～8月31日の会期で開催されました。桜ヶ丘ミュージアムでは、豊川海軍工廠の歴史や戦争について知っていただき、私たちの街にもあった戦争について考えていただく、毎年夏の時期に「豊川海軍工廠展」を開催しています。豊川海軍工廠は、海軍兵器の生産を目的として、1938年に旧宝飯郡豊川町・牛久保町・八幡村にまたがって建設することが決定され、1939年12月15日に開庁しました。機銃及び弾丸や艦船で使用する測距儀、双眼鏡、射撃装置などを生産し、機銃の生産に関しては日本最大の規模で、東洋一の兵器工場といわれました。工廠の発展は、人口の増加や各

町村の結びつきを強めることとなり、豊川市の誕生・発展に大きな影響を与えました。しかし、1945年8月7日の米軍B29爆撃機などによる空襲で壊滅的な被害を受け、2500名以上の人が犠牲となりました。今年は、従来の資料展示に加え、近代遺跡としての保存と活用が近年クローズアップされている豊川海軍工廠跡地について、豊川市教育委員会が実施した近代遺跡調査についての速報展示を同時開催しました。この調査の展示は名古屋大学太陽地球環境研究所豊川分室の部分のみで、火薬庫・防空壕・爆弾穴など23か所の写真・図面を展示していました。また桜ヶ丘ミュージアムでは、戦争を経験した方に豊川海軍工廠に関する絵を描いてもらい、収集・公開していこうとする試みを2007年よりおこなっています。これは豊川市にもあった戦争を後の世代へ伝えるため、視覚的に捉えることのできる絵画資料が必要と考えて始めたものです。図録と豊川海軍工廠展・豊川海軍工廠近代遺跡調査速報展、それぞれの解説資料を作成しています。

Tel:0533-85-3775 Fax:0533-85-3776

<http://www.city.toyokawa.lg.jp/enjoy/sakuragaokamseum.html>

岡崎市美術館:愛知

収蔵品展「くらしと戦時資料展」が2011年6月4日～7月31日の会期で開催されました。昭和という時代、1945年8月15日の終戦を迎えるまで、日本は世界の国ぐにと長い間戦争をしていました。1941年12月8日に始まった太平洋戦争だけでなく、1927年および1928年の山東出兵、十五年戦争発端となる1931年の満州事変、さらに1937年には日中戦争の全面化へとなる盧溝橋事件というように、終戦を迎えるまでの日本は絶えず戦争の足音とともにありました。身近な人が徴集され戦地に赴いて命を落とし、徴用による労働や物資不足の不自由な生活をいられ、そして、岡崎の町が空襲で燃えてしまった時代でした。この展覧会では、岡崎市が寄贈を受け保管している戦争を伝える資料、記録類を公開していました。陸軍、海軍の軍服をはじめとする軍装品、戦時下のくらしをうかがわせる物を徴兵検査の記録や当時の世相を語る写真などを交えて紹介していました。太平洋戦争の開戦から70年。戦時下の生活を振り返りながら、戦争の悲惨さと平和の尊さについて学び考え、あらためて「今を生きる」ことを見つめ直す機会とするために開かれたものです。図録を刊行しています。

Tel: 0564-28-5000 Fax:0564-28-5005

<http://www.city.okazaki.aichi.jp/museum/bihaku/top.html>

四日市市立博物館:三重

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」が2011年6月17日～8月28日の会期により、3階のサルビアギャラリー学習室で開催されました。平和学習の支援を目的に、四日市が空襲に遭ったことや、戦時中の暮らしの様子を写真パネルで紹介するとともに、空襲を伝える手紙、空襲を描いた絵、罹災証明書、空襲で焼けた人形やお金、焼夷弾、防空頭巾、配給切符、債券、代用品、貯金箱、絵本、雑誌、教科書など約220点の資料や、防空壕と焼夷弾の模型も展示していました。忘れてはならない戦争の体験と戦争の悲惨さを伝えていました。

Tel:059-355-2700 Fax:059-355-2704

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/>

多気町多気郷土資料館:三重

「戦争と絵はがき2」展が2011年7月7日～9月26日の会期で開催されました。昨夏開催した「戦争と絵はがき」展に続く第2弾で、その時に自分が持っている軍事郵便の絵はがきを持って来館し、今年1月に90歳で亡くなった伊勢市の中川建造さんの遺品123枚を中心に、計189枚の絵はがきと、関連資料を展示していました。

Tel:0598-38-1132

http://www.town.taki.mie.jp/guide/kyodo_kikaku.html

大津市歴史博物館:滋賀

第92回ミニ企画展「大津・戦争・市民」が2011年7月12日～9月4日の会期で開催されました。日中戦争から第2次世界大戦にかけて、大津市内にもさまざまな軍事施設が設置され、多くの若者がきびしい訓練をしていました。また市民も「銃後」のきびしい生活を強いられました。陸軍歩兵第9連隊、大津海軍航空隊、天虎飛行訓練所、比叡山桜花特攻基地などの写真、兵隊らが故郷の家族にあてた絵はがき、日誌、行進する兵隊が描かれた子ども用の茶わん、戦時教育用の紙芝居、兵隊の人形など資料や写真計114点を展示して、戦争の記録を後世に伝えるとともに、平和へのメッセージを当時の資料によって伝えています。

Tel:077-521-2100 Fax:077-521-2666

<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

山本宣治資料展:京都

山本宣治資料展が9月1～6日に宇治市生涯学習センターで開催されました。1928年第一回普通選挙で労働党から立候補し、厳しい選挙弾圧の中で衆議院議員

に当選しました。しかし主権在民や戦争反対を口にするだけで逮捕、投獄された中で、1929年時の権力の命を受けた暗殺者の手で刺殺されました。わずか39歳の若さでした。料理旅館「花やしき」にある資料や、葬式の貴重な映像(無声)を見ることができました。

宇治山宣会:Tel & Fax:0774-48-2472

舞鶴引揚記念館:京都

企画展「絵画 舞鶴港入港『引揚船』」が2011年2月16日～5月16日の会期により、企画展示室で開催されました。舞鶴港は引揚港として1945年から1958年までの13年間、多くの引き揚げ者、遺骨を迎え入れました。その間、引き揚げに際して日本船籍32隻、アメリカ船籍25隻が使用されました。企画展では、元海運会社社員の広田敏さんの作品で、舞鶴に入港した「興安丸」「高砂丸」「雲仙丸」などの絵画8点、舞鶴港以外に入港した「千歳丸」「氷川丸」「有馬山丸」の3点を展示していました。

企画展「『凍った大地に』—シベリア抑留の記憶から平和を希求する絵画展」が2011年5月18日～7月18日の会期により、企画展示室で開催されました。1949年8月、遠州丸で舞鶴港に引き揚げるまでの4年間、捕虜としてシベリアで強制労働を強いられた体験を絵画にして記録した、品川始さんの作品24点を展示していました。

Tel:0773-68-0836 Fax:0773-68-0370

http://www.maizuru-bunkajigyoudan.or.jp/hikiage_homepage/next.html

大阪国際平和センター(ピースおおさか):大阪市

収蔵品展「焦土大阪II 絵で見る大空襲」が2011年3月10日～7月10日の会期により、1階の企画展示室で開催されました。太平洋戦争末期、1945年3月13～14日に、アメリカ軍のB29爆撃機の大編隊により大阪市の中心部は火の海となり、それを皮切りに大阪は幾度も大規模な空襲を受け、焦土と化しました。ピースおおさかでは開館以来、その大空襲の被災状況や被災後の焼け跡などを克明に記録した絵画の収集に努め、小はハガキの大きさから大は人の背丈までの作品を収蔵しています。それらは未曾有の戦災を後世に伝えたい、との気持ちを込めて描かれたものであることはいまでもありません。今回の収蔵品展は、昨年「焦土大阪—写真で見る大空襲」展において写真が果たした役割を、絵画に託し、視覚的に大阪大空襲の全貌を明らかにするだけでなく、空襲体験の継承の観点からも、戦争と平和について考えるひとつの機会とするものです。絵画・写真・地図・文字パネル約100点により、大阪大空襲の被害の実相について、絵画資料を中心に説明していました。1トン爆弾の

破片、警防団鉄帽、防空頭巾などの実物資料約 40 点も展示していました。

「カウントダウン ZERO (ゼロ)」パネル展が 2011 年 3 月 20 日～4 月 15 日の会期で開催されました。映画「カウントダウン ZERO (ゼロ)」試写会と高木静子さん被爆体験講話が 2011 年 3 月 26 日に 1 階の講堂でありました。

特別展「沖縄戦—住民を巻き込んだ戦い」が 2011 年 7 月 26 日～12 月 25 日の会期により、1 階の企画展示室で開催されています。太平洋戦争が始まって、しばらくすると、遠い海のむこうの戦争がだんだん日本本土に近づいてきました。日本国民の多くにとって、空襲や地上戦で住民が巻きこまれる戦争は初めての経験でした。何十万もの兵士と住民が死傷した沖縄戦を、さまざまな側面から時系列で描き、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える機会とするために開かれたものです。パネル展示構成は、アメリカ軍侵攻以前、慶良間・本島へのアメリカ軍上陸、本島北部・伊江島の戦闘、本島中部・首里の戦闘、大東諸島の戦闘、宮古・八重山の戦闘、本島南部の戦闘、収容所の生活そして基地の島、もう一つの沖縄戦—戦争未亡人小林絹枝さんの半生です。ひめゆり平和祈念資料館作成のパネル、体験画の複製パネル、沖縄戦の写真パネル、アメリカ軍の伝単・皇民化のポスター・ちらし・新聞記事の写真など、100 点の写真・地図・文字パネル・絵画・ビデオなどで説明しています。砲弾の信管・薬莖、兵士の遺品、特攻隊員の遺品、死亡告知書、太田健一画の沖縄戦の絵など、約 40 点の実物資料を展示しています。「もう一つの沖縄戦」のコーナーでは、沖縄戦で夫を亡くした小林絹枝さんの関係資料、夫との写真、軍事郵便、戦死公報、戦友からの戦死状況を知らせる手紙、戦争未亡人運動関係資料、慰霊関係資料などを展示しています。

大阪大空襲平和祈念事業①講演会と歌で検証する戦争と平和が 2011 年 3 月 12 日に 1 階講堂で開かれました。大阪に多くの沖縄の人びとが暮らしていることは知られていますが、沖縄のことはどれだけ知られているのでしょうか。沖縄だけが多くの基地を背負い、苦しんでいることから目をそらし、日本は平和だと言うなら、沖縄は日本ではないことになるのかもしれませんが。大阪はさまざまな文化が交流する街です。第 1 部では、日本と沖縄との狭間に揺れる沖縄人としての気持ちを、金城馨さんが「見よ この沖縄の現実を一戦争はつづいている」と題して語りました。第 2 部では 2 つの文化を経験する、キム・ランヒさんと、この検証シリーズを継続して担当している高橋樺子さんが多文化共生社会のあり方を歌で検証しました。進行はもず唱平さんでした。

大阪大空襲平和祈念事業②大阪大空襲と幻の卒業式が 2011 年 3 月 13 日に 1 階講堂で開かれました。1945 年、大阪は 3 月 13 日～14 日の第 1 次大空襲を含む 8 次にお

たる大空襲や多数の空襲により、街は焼き尽くされ、約 1 万 5 千人の死者を出しました。昨年、空襲被災者の証言を集めたビデオを、「新聞うずみ火」が大阪府から委託され制作したことをうけて、第 1 部では同新聞代表の矢野宏さんが、空襲体験の継承にかける想いについて、体験者や若者と語りました。第 2 部では、3 月の大空襲により卒業式に参加できなかった、当時の国民学校 6 年生のために、66 年目の卒業式をおこないました。

大阪大空襲写真集「写真で見る大阪空襲」が 2011 年 4 月 15 日に刊行されました。撮影場所や撮影者が特定された、約 100 点の写真を収録しています。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.peace-osaka.or.jp/>

堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム):大阪

2010 年度特別展 国境なき子どもたち写真展「共に成長するために—バングラデシュ・フィリピンの子どもたち」が 2011 年 2 月 16 日～25 日の会期により、教育文化センター(ソフィア・堺)図書館棟 1 階の小ギャラリーで開催されました。フォトジャーナリストの渋谷敦志さんと安田菜津紀さんがそれぞれバングラデシュとフィリピンで撮影した子どもたちの写真を展示しました。児童労働、路上生活、薬物、売春、ゴミ山、災害等さまざまな問題に囲まれて、犯罪や死の影と隣り合わせで生き抜く子どもたちの写真から、世界の現状を知り、今、私たちができることについて考えてほしいとの趣旨で開かれました。

「マリアのへそ」映画上映会が 2011 年 2 月 19 日に教育文化センター(ソフィア・堺)3 階の研修室 1 で開かれました。「マリアのへそ」はフィリピン、マニラのストリートチルドレン、マリア(6 才)の物語です。彼女の家族は、兄のジョエル(12 才)、アラニオ(16 才)、そして父で、彼らは路上生活をしています。子どもたちは、道路での新聞売り、物乞い、捨てられた野菜などを拾って生きています。父はペディキャブの運転をしていましたが、事故に遭い、今は酒びたりの毎日を送っています。そんな父親が奮起して生きていこうとした時、この家族の運命が大きく動き始めるという、子どもと家族の愛の物語です。

企画展「低炭素都市「クールシティ・堺」の実現」が 2011 年 1 月～3 月 30 日の会期で開催されました。地球温暖化が深刻化し、生態系にも大きな影響を及ぼしています。温暖化は異常気象を招きます。気候変動は農産物の収穫にも大きな影響を与えます。水不足や食糧不足による飢餓も世界各地で起こっています。そして地球温暖化によって本来享受すべき基本的な権利や自由を奪われている人も多く、まさに今日、環境を守るということは戦争や紛争をなくすことと同じく平和につながっていると言

えます。今回の企画展では、低炭素社会を実現するため、自然エネルギーを利用した太陽光発電を中心に紹介していました。

企画展「ダモイ(帰国)までシベリア抑留者が描いた画と詠んだ句」が2011年4月～6月29日の会期で開催されました。第2次世界大戦後、旧満州(中国東北部)の日本兵士たちは旧ソ連軍によって武装解除されました。その兵士の数は約60万人にのぼり、シベリア各地を中心に遠くコーカサス、北極圏にまで及ぶ各地のラーゲリ(収容所)に強制移送されました。極寒環境のもとで、食事や休養もほとんど与えられず、重労働を強要されたシベリアでの過酷な抑留生活で、日本に帰れると信じながら亡くなった人は約6万人にも及びました。そして、抑留者の帰国は、最終船まで、10年以上の歳月を要しました。今回の企画展は、一人のシベリア抑留者が帰国後その忘れられない出来事の画と句に表した色紙を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、人権の大切さを訴えるものでした。

企画展示「ミニミニ原爆展－広島・長崎の記録」が2011年7月1日～9月29日の会期で開催されました。1945年8月、広島・長崎に原子爆弾が投下されました。一瞬にして多くの尊い命が奪われ、また、生き残った被爆者の多くは、66年たった今もなお、苦しんでいます。1983年に堺市議会で「非核平和都市宣言」を決議し、また境市は2008年には「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」に賛同する世界各国の都市で構成された団体である『平和市長会議』に加盟し、世界の都市と連携し、核兵器廃絶に向けて訴えています。今回の展示は、広島・長崎の原爆被害の写真を見て、核兵器の惨禍、恐ろしさ、そして戦争の悲惨さ・平和の尊さを考えてもらうために開かれたものです。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159
http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_jinken/

大阪人権博物館(リパティおおさか):大阪市

2011年3月1日に総合展示を更新しました。ゾーン1は「いのち・輝き」で人工呼吸器をつけて生きる子どもたちや、HIV/AIDS、いじめ防止等の展示を通して命の大切さや、自他の尊重について考えるものです。ゾーン2「共に生きる・社会をつくる」は世界と大阪の交流の歴史や大阪の中の多様な文化・くらし、人権を大切にするとりくみ等の展示を通して、多文化共生や、より暮らしやすい社会のあり方について考えるものです。ゾーン3「夢・未来」は大阪の伝統的な技や最新の技術、キャリア教育のとりくみ等の展示を通して、私たちの生活を支えるさまざまな仕事や働くことの大切さについて考えるものです。体験コーナーは12種類設置されています。ここでは、見る

だけでなく、触ってみて、着てみたりすることで考えているだけではわからない気づきや発見することができるようになっていきます。写真家ユージン・スミスが撮影した水俣病の実態の写真展示やビデオによる当事者の語りもあります。

Tel:06-6561-5891 Fax:06-6561-5995
<http://www.liberty.or.jp/>

大阪大学総合学術博物館:豊中市

大阪大学創立80周年記念、総合学術博物館第13回企画展「阪大生・手塚治虫—医師か?マンガ家か?」が2011年4月28日～6月30日の会期で開催されました。1.手塚治虫と大阪大学、2.手塚治虫と大阪・阪神間の2つの構成です。1.では、学生と漫画家の二重生活の様子、赤本漫画などの作品、学友座の思い出、卒業・医師免許や医学博士のことなどを展示していました。2では、昆虫標本・ノート、宝塚劇場、大阪市立電気科学館のプラネタリウムなど、手塚が享受した阪神間の文化について紹介していました。作品の原画も展示していました。

Tel:06-6850-6284
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/jp/index.html>

姫路市平和資料館:兵庫

収蔵品展「出征兵士と見送る家族」が2011年1月8日～3月27日の会期により、2階の展示室で開催されました。資料館は、市内外の方から太平洋戦争当時の現物資料の寄贈を受けています。この資料の中からテーマを絞って毎年収蔵品展を開催しています。今回は、「出征兵士と見送る家族」をテーマに戦争の惨禍と平和の尊さが伝えるために展示会が開かれました。戦時体制が確立する以前の大正時代から始まり、終戦までを6つのエピソードで紹介しています。【エピソード1】では、大正デモクラシーの台頭と第一次世界大戦後の好景気を背景に欧米文化を取り入れた大衆文化が花開き、所謂「大正ロマン」を謳歌した一時期を紹介し、その後の自由を奪われた戦時期とを対比させています。【エピソード2】では、世界恐慌に端を発する大不況の波をうけた家族に戦争の足音が近づく様子を紹介しています。【エピソード3】では、日中戦争が始まり、戦地に赴く出征兵士を見送り、戦死の帰還を迎える愛国婦人会の様子を紹介しています。【エピソード4】では、戦時中の国策となった結婚と出生の奨励を受け入れ、配給制による物資の制限に耐える家族の様子を紹介しています。【エピソード5】では、太平洋戦争の激化により学徒出陣が開始され、徴兵検査を受けた後、戦地に赴く息子を見送る母親の様子を紹介しています。【エピソード6】では、本土空襲が激しくなり、学童た

ちが親と離れて暮らす疎開生活や軍需工場で働く女子挺身隊の様子を紹介しています。

期間中の2011年2月11日に神頭敬之介さんによる戦争体験談が2階会議室でありました。

春季企画展「衣服が語る戦争の記憶」が2011年4月9日～7月3日の会期により、2階の展示室で開催されました。太平洋戦争での衣服関連資料を展示して戦争の惨禍と平和の尊さを伝えるものでした。復員兵や引揚者などの兵士や民間人がどのように戦争の時代を生き、あるいは傷つき倒れていったのか、そして、生き残った人たちがいかにして敗戦の痛手を乗り越えていったのかを実物、解説パネル、写真パネルなどの展示で追っていました。まず実物展示では、当時の人びとが実際に着用していた衣服を中心に約300点を展示しています。また解説パネル・写真展示では、アジア・太平洋地域にどのように戦域が広がり、人びとが移動していったのか、そして終戦後、彼らがどうやって日本本土に帰り着き、また復興の道を辿ったのかを、約50点の写真資料とともに紹介しています。

期間中の2011年5月5日にBGMなどを使った、女優駒田真紀さんの朗読会が、6月19日には河野孝幸さんの姫路空襲体験談を聞く会が、それぞれ開かれました。

「非核平和展」が2011年7月16日～8月31日の会期により、2階の展示室で開催されました。姫路市では、1985年3月6日の「非核平和都市宣言」以来、核兵器の廃絶と世界の恒久平和を願う趣旨を広く市民にアピールするとともに、非核平和について考える機会を提供するため、1986年度から「非核平和展」を毎年開催しています。2011年は広島平和記念資料館・長崎原爆資料館所蔵の現物資料、写真パネルの展示、市内小・中・高校生の絵画・書道作品、県立姫路工業高校デザイン科生徒の作品を展示していました。

Tel: 079-291-2525 Fax: 079-291-2526
<http://www.city.himeji.lg.jp/heiwasiryo>

柿衛文庫:兵庫・伊丹市

小企画展「前田美千雄の画業—妻に絵手紙を遺して戦場に散った日本画家」が2011年6月12日～26日の会期で開催されました。この展覧会では、東京美術学校(現・東京芸術大学)日本画科を卒業した前田美千雄の画業にスポットをあて、幼少期の絵短冊、細密画や色紙など日本画家への志を偲ばせる作品を中心に紹介していました。

Tel: 072-782-0244
<http://www.kakimori.jp/>

奈良県立図書館:奈良市

戦争体験文庫企画展示「貯蓄報国」が2011年1月5日～3月30日の会期で開催されました。賀屋興直『貯蓄報国の途』、『写真週報』の国債などの広告、奈良県『国民貯蓄推奨運動概要』第二集、奈良県行政文書『支那事变ニ関スル件』より庁内各部課長あて「支那事变貯蓄債権購入ノ件」、新聞記事「日本一の貯蓄町 範とすべき五条町」、磯城郡多村の大字ごと国債購入割当表、国民貯蓄通帳、鉛筆、戦時国債などを展示していました。図録を作成しています。

戦争体験文庫企画展示「大和の隣組 戦争を支えた地域組織」が2011年4月19日～6月29日の会期で開催されました。1940年9月、内務省は「部落会、町内会等整備指導に関する訓令」を出し、市町村の下に部落会(農村部)と町内会(都市部)を、その下に10戸程度の隣保班(通称隣組)を置いて、国民の組織化していく方針を打ち出しました。農村部では、大字単位で置かれた町村の区や、肥料の購入などを共同でおこなう農事実行組合が組織されており、こうした組織の機能をも再編する形で部落会が組織されました。一方、新興住宅地を中心に都市部では自治組織の伝統が薄い場合も多く、そうした場合には、町内会や隣組は新しく作られた場合も多くみられました。しかし、経済統制が強まり、日用品の配給が町内会、隣組を通じておこなわれるようになると、生活に欠くことのできない存在になっていきます。隣組、部落会又は町内会、市町村ではそれぞれ定期的な会合「常会」を開いて、系統的に上意下達・下意上達を図るものとされました。しかし、戦争が激しくなるなかで、貯蓄や生産物の供出がなかば強制的に割り当てられるなど上意下達の側面が目立つようになります。そのため、占領軍は部落会などが日本の民主化を阻害しているとして、1947年に部落会や町内会の廃止を指示しました。しかし、これら組織が果たしていた役割は大きく、さまざまな形で存続し、今日の自治組織へとつながっていくこととなります。「大和の隣組」は1943年4月号から県内の全隣組にいきわたるように増刷されました。戦争体験文庫にも、この4月号からのものが一部残っています。丹波市町石上第二区北部落会会長をしていた奈良県中央図書館仲川明も、1943年4月号で、増刷の経緯を説明したのち、「まづ大和の隣組や週報(政府発行の広報誌)の隣組組回覧を実行してみ、この方法はなかなか面白い、他の本も、もう少しゆっくり廻して隣組で読んでみようと思はれる所は、奈良の中央図書館に相談下されば、喜んで御相談に応じ、隣組へ本を貸し出すといふことも考えて居る」と業務宣伝をしています。図録を作成しています。

戦争体験文庫企画展示「『大和錦』在郷軍人会奈良支部の活動」が2011年7月1日～9月29日の会期で開催されました。戦前、兵士予備軍たちを組織した在郷軍人会

がありました。奈良県立図書情報館には、1932～1935年の帝国在郷軍人会奈良支部機関紙『大和錦』が残っています。満州事変は起こりつつも、まだ全面的な戦争には至っていなかったこの時期に、在郷軍人会が地域レベルでどのような活動をしていたかを同紙より見ていく展示会でした。

平時において徴兵され、数年の軍隊生活を終えた青年は除隊されると、一般社会での生活を再開します。しかし、これで兵役の義務が終わったわけではありません。戦争になれば、赤紙によって召集され再び軍隊生活を送る必要がありました。こうした兵籍を持ち通常生活を送る青年は在郷軍人と通称されていました。特に明治後期以降、戦時動員や社会教育の必要から、在郷軍人の組織化が進められ、1910年には帝国在郷軍人会が成立しています。帝国在郷軍人会は、中央で機関紙『戦友』を発行するほか、奈良県支部でも『大和錦』を発行していたことが所蔵資料から確認できます。『大和錦』は、1932～1935年のものが約25号分見つかっています。ここには軍人の寄稿や定期的におこなわれる簡閲点呼のマニュアルのほか、町村単位で組織された「分会」の活動報告が掲載されています。これを見ると、招魂祭による戦死者慰霊、各種兵事行事の補助などが分会の事業の中心だったようです。武術大会や軍人を招いての時局、軍事講演会なども盛んで、忠魂碑を建設や分会旗を新調して入魂式といった記事も多くみられます。満州事変があり軍国熱が高まりつつも、まだ中国との戦争は本格化せず、村には多数の在郷軍人が残っており活発な活動を展開できていたことがわかります。また、国防婦人会の県、町村支部の設立にも在郷軍人会が深く関わっているのがわかるほか、1934年4月に奈良の歩兵第38連隊が満州に派遣されると、遺家族の農事手伝いや慰安といった活動も目立つようになります。図録を作成しています。

Tel: 0742-34-2111 Fax:0742-34-2777
<http://www.library.pref.nara.jp/sentai/index.html>

水平社博物館:奈良・御所市

第14回特別展「全国水平社創立への軌跡」が2011年5月1日～8月31日の会期で開催されました。全国水平社創立90周年(2012年3月3日)を迎えるにあたり、全国水平社創立の経緯を小中学生にも分かりやすく紹介し、その背景と意義について考える展示会です。

Tel:0745-62-5588 Fax:0745-64-2288
<http://www1.mahoroba.ne.jp/~suihei/>

岡山市デジタルミュージアム:岡山市

企画展 第34回「岡山戦災の記録と写真展」が2011

年6月4日～30日の会期により、4階企画展示室で開催されました。1945年6月29日午前2時43分から4時7分にかけて、岡山市街地を目標とした大規模な空襲がおこなわれました。少なくとも1700人をこえる死者が出たこの空襲は、どのように、何故おこなわれたのでしょうか。この展示会は、岡山空襲で投下された焼夷弾、焼夷弾部品類、レーダー妨害剥片、アメリカ軍の撮影した岡山空襲に関連する画像、動画類、岡山空襲の高熱によって変形したガラスや陶器類、死亡証明書、罹災証明書、防空頭巾、灯火管制用カバー、防火用バケツ、非常用持出袋などの実物資料及び空襲前後の岡山市街地の写真パネルなどを展示し、この空襲を考えるものです。

関連して、記念講演会が2011年6月11日に4階の講義室で開かれ、今治明德高等学校矢田分校教諭の藤本文昭さんが「岡山を空襲したB29部隊 第58航空団について」と題して講演しました。

Tel:086-898-3000 Fax:086-898-3003
<http://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/>

広島平和記念資料館:広島市

企画展「こどもたちの見た戦争 はだしのゲンとともに」が2011年2月4日～7月11日の会期により、東館地下1階展示室(5)で開催されました。広島市出身の漫画家・中沢啓治さんによる、作者自身の被爆体験をもとにした漫画「はだしのゲン」。作者の分身である主人公・中岡元(ゲン)が、原爆で家族を失いながらも、戦後をたくましく生き抜いていく姿が描かれています。同展では、ゲンが目撃したこと、体験したことを紹介しながら、当時の子どもたちが戦時中どんな生活を送っていたのか、また、原爆投下によって子どもたちに何が起こったのか、その一端を伝える内容となっています。展示構成は以下の通りです。

はじめに

1. 戦争中の市民生活
2. 国民学校
3. 学童疎開
4. 原子爆弾投下 1
5. 原子爆弾投下 2
6. 学校の再開
6. たくましく生きる子どもたち 1
7. たくましく生きる子どもたち 2
8. 絵本 はだしのゲン

中沢啓治氏 プロフィール

おわりに

図録を作成しています。

2011年度第1回企画展「生きるー1945.8.6 その日からの私」が2011年7月15日～12月14日の会期により、

東館地下1階展示室(5)で開かれています。この企画展では、被爆者一人ひとりの人生を見つめ、原爆がもたらした被害の深刻さと「生きる」ことについて考えるために、残された被爆資料や遺品、手記や原爆の絵などとともに十数組の人やその家族の生きざまを紹介しています。

展示構成は以下の通りです。

はじめに

家族の絆(きずな) 1

家族の絆(きずな) 2

異国(いこく)の地で 1

異国(いこく)の地で 2

伝える 1

伝える 2

平和への思い 1

平和への思い 2

おわりに

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館:広島市

企画展「しまつてはいけない記憶—さし出された救いの手」が2011年1月2日～12月28日の会期により、地下1階の情報展示コーナー展示室で開催されています。1945年8月6日に投下された原子爆弾により、広島は街は一瞬にして壊滅的な被害を受けました。瀕死の状態に逃げ惑う人びと。瓦礫の下から必死で助けを求め人。だれもが我が身のことで精一杯でした。このような中でも家族や友人を助けるために、あるいは見も知らぬ人の声に立ち止まり、必死で救出活動をする人、被災者に声をかけ貴重な食べ物や衣類を提供する人がいました。また、救護所では、人びとが被災者を助けようと、寝食を忘れて看護に携わっていました。火の迫る中での救出、思いもかけぬ親切、必死の看護、苦しい時にさし出された救いの手は、希望を失いかけた被災者に生き抜く勇気を与えました。こうした状況を体験記を通じて紹介しています。被爆の実相や被爆者及びその家族の悲しみ、苦しみ、そして、平和への強い思いを知ってもらうために開かれたものです。体験記26編、関連資料14点を展示し、三面シアターによる映像(3編、約12分)を上映しています。

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

福山市人権平和資料館:広島

企画展「福山空襲と戦時下の暮らし Part II」が2011年6月7日～8月28日の会期により、2階企画展示室で

開催されました。資料館は2007年、小学校・中学校の社会科教科書に添った内容で、企画展「福山空襲と戦時下の暮らし」を実施しました。今回の企画展は、そのPart IIとして、前回使用した展示パネルとともに、これまで市民から寄贈された、約120点余りの写真や現物資料を加え、これらを「出征」・「記事・記念品」・「戦地・所持品」・「戦時下の生活」に整理して展示していました。

展示パネルの内容は以下の通りです。

第1部:空襲の目標となった福山市街地

当時の福山市は、世帯数1万3671戸、人口5万8745人、の静かな城下町でした。この小さな都市が米軍の攻撃目標となったのは、どうしてでしょう。米軍資料を見ると、米軍諜報情報部による都市爆撃順位は、福山:89位となっています。空襲の目標となった理由の「市街地」・「軍事施設」・「軍需工場」を、当時の写真をもとに、パネル化しました。

第2部:空襲の実相

1941年12月8日の開戦から4年、1945年3月10日の東京大空襲に始まって、米軍の沖縄本土上陸(4月)と続き、日本の200余りの都市は、連日のように空襲を受け、ついに「ヒロシマ」・「ナガサキ」、そして終戦をむかえます。福山は8月8日、午後10時25分から約1時間、B29爆撃機91機による空襲を受け、市街地の焼失は314戸(約80%)焼失家屋数:1万0179戸、被災人口:4万7326人、死者:354人という被害を受けました。この福山空襲の実相を、アメリカ軍資料から明らかにしていきます。

第3部:戦時下の暮らし

戦争が始まると、すべてのものを戦争に動員する体制がとられ、戦争に役立つことが優先されました。政府は、民間の工場を軍需工場へ転用し、労働力不足を補うために、学徒の勤労動員や未婚の女子を女子挺身隊に編成する「根こそぎ動員」により、軍需生産の強化を図りました。また、戦争遂行の財源を確保するための「貯蓄増強運動」、食料や衣類などの生活必需品を、家族の人数や年齢により割り当てる「配給制度」も始まり、国民生活を極度にきりつめることを求めました。都市空襲が現実のものとなると、児童の学童集団疎開も始まりました。福山地方には、大阪市福島区から、3年生以上の児童約3千名が集団疎開しています。このコーナーでは、衣食住にわたる現物資料を含めて展示し、戦時下の暮らしを紹介しています。戦争末期の人びとの暮らしは、いまを生きる私たちには想像もできないほど、苦難・苦労の連続であったことが分かります。

第4部:平和への願い

福山市は、この戦争の悲惨な体験をふまえて、戦後の復興に立ち上がりました。1946年4月「戦災復興土地区画整理事業」、1947年全国初の試みとして「復興博覧会」を開催し、市民に復興への意欲と平和の大切さを再

認識させました。また、市民の平和への強い願いを生かす活動として、1955年には、「原水爆禁止運動福山推進連盟」の結成、1972年福山市制五十五周年記念の事業として「福山市戦災死没者慰霊の像(母子三人像)」の建設、1984年「平和非核都市福山宣言」、そして現在も続けられている「平和アピール展」など、市民ぐるみで平和の取り組みを積み重ねてきています。戦後66年、「人権と平和」を都市づくりの基本理念に位置づけてきた福山市の歩みを振り返ります

Tel:084-924-6789 Fax:084-924-6850

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinkenheiwa-shiryokan/>

徳島県立博物館:徳島市

『平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業 徳島平和ミュージアムプロジェクト報告書』が2011年3月5日に発行されました。徳島平和ミュージアムプロジェクトは戦後65年の節目にあわせて徳島県内(徳島県立博物館、徳島県立図書館、道の駅 貞光ゆうゆう館、海陽町立博物館、松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館)で戦争と平和をテーマにした展示や、これと関連するワークショップなどの普及交流事業を展開しました。報告書には、徳島県立博物館の特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」、巡回展「海を渡った人形と平和への願い」、答礼人形「ミス徳島」の調査・修復、シンポジウム「近代四国における戦争と地域社会」などのプロジェクトの記録とプロジェクトに寄せる思いが収録されています。

Tel:088-668-3636 Fax:088-668-7197

<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/default.htm>

高松市平和記念室:香川

「平和記念室常設展示室内収蔵品コーナー」で2011年2月1日～5月31日の期間、「資料が語る戦時下の総動員…資源確保…の記憶」の特集を、2011年6月1日～9月30日の期間、「満期記念の品々と軍人用食器等」の特集を、それぞれ実施しました。

「高松空襲写真展」が2011年6月25日～7月10日の会期により、1階ロビーで開催されました。高松空襲に関する被災資料・パネル・絵画などを展示しました。

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7724

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/1794.html>

福岡市博物館:福岡

部門別展示「戦争とわたしたちの暮らし20」が2011年6

月7日～7月24日の会期で開催されました。1945年6月19日深夜から翌20日未明にかけて、アメリカ軍の長距離爆撃機B29の大編隊から投下された焼夷弾による爆撃を受け、博多部など福岡市の中心部は焼け野原になりました。6月19日の「福岡大空襲の日」の前後に、館蔵の戦時関係資料を展示するシリーズの20回目です。今回のテーマは戦時下の教育、特に、子どもたち「少国民」に対する学校や社会で子どもたちに対しおこなわれた教育を取り上げて、あらためて「戦争と平和」について考えるきっかけにしようとして開いたものです

Tel:092-845-5011 Fax:092-845-5019

<http://museum.city.fukuoka.jp/>

三池カルタ・歴史資料館:福岡

「平和展2011 写真でみる大牟田の空襲」が2011年6月7日～8月28日の会期で開催されました。大牟田市は1944年から45年にかけて5回にわたってアメリカ軍の空襲を受け、多くの犠牲者がでました。今回の平和展は、大牟田の空襲についてのパネルや写真を中心に展示していました。この展示は、あらためて平和の意味を考える機会になることを願って開かれたものです。会場には、B29の模型が飾られており、焼夷弾が落ちてくる様子を模していました。空襲については、空襲を記録する会提供の、機銃弾、機関砲弾、焼夷弾、防空ずきん、民間用鉄帽、焼け跡で拾ったはさみ、焼け残った恵比寿像などの資料と、爆撃、被弾墓石、被弾狛犬、弾痕跡、墜落アメリカ軍機の残骸、伝単、防空訓練、防空監視哨、慰霊碑などの写真を展示していました。館蔵の戦時資料としては、松屋炎上の絵、罹災証明書、火葬認可証、配給通帳・切符、債券、貯蓄・簡易保険関係資料、経済奉公会関係資料、回覧板、御真影勅語謄本台帳、教科書、防毒面、引揚証明書、復員証明書、慰問袋、千人針、鉄帽、脚絆、背囊、図囊、水筒、飯ごう、婦人会資料などを展示していました。館蔵戦時カルタは、たのしいかるた、イロハカルタ、コドモナリグミ、翼賛カルタ、戦陣訓カルタ、陸海軍戦争カルタ、ワンワン戦争カルタ、銃後の標語カルタを展示していました。

同時に、1945年7月27日の大牟田空襲の体験を絵本にした「わすれないあの日」(三代沢史子作・画)の原画展を開催していました。

Tel&Fax:0944-53-8780

<http://三池カルタ・歴史.com/>

北九州市立文学館:福岡

2011年度夏の企画展「昭和20年8月9日は(小倉原爆)だった」が2011年7月20日～8月31日の会期によ

り、1階の企画展示室で開催されました。1945年8月9日、長崎に投下された原子爆弾は、最初の投下目標は小倉でした。企画展では、8月8日の八幡大空襲やヒロシマ・ナガサキの原爆の資料、写真を展示し、平和の大切さ、生命の尊さを見つめ直しています。

Tel:093-571-1505 Fax:093-571-1525
<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

兵士・庶民の戦争資料館・福岡・小竹町

沖縄戦についての企画展が2011年4月24日までの会期で開かれました。京都郡出身で1944年6月に召集され、同年9月に海上挺身基地第30大隊に編入されて沖縄・宮古島にいた福智町在住の上田常春さんから寄贈された、1944年9月から復員するまでの約2年間を記録した日記や捕虜の収容所で配られていたとみられる「沖縄新聞」など約30点を展示しました。

Tel:09496-2-8565

長崎原爆資料館:長崎市

2010年度第2回企画展「原爆を記録するー相原秀二資料展」が2010年12月1日～2011年2月28日の会期により、地下2階の企画展示室で開催されました。相原秀二は日本映画社スタッフとして被爆後間もない長崎を撮影し、映像として残しました。2010年度第1回企画展は、相原が撮影した写真を中心に公開しました。第2回企画展では、広島平和記念資料館協力のもと、原爆記録映画「広島・長崎における原子爆弾の影響」の製作に携わった相原が、被爆した長崎を撮影する中で書き記した資料やその後の日記などを公開しました。

2010-2011年度第3回企画展「受難の歴史を越えてー浦上天主堂遺品展」が2011年3月16日～5月10日の会期により、地下2階の企画展示室で開催されました。これは、カトリック浦上教会の協力のもと、普段、浦上天主堂の信徒会館に展示されている原爆資料を、長崎原爆資料館で展示したものです。原爆被害の中心地区である浦上のシンボルである浦上天主堂の被害を見るとともに、浦上という土地に息づく歴史や、そこで培われてきたものを感じられる展示会になっていました。

2011年度第1回企画展「永井隆のまなざし」展が2011年5月16日～7月25日の会期により、地下2階の企画展示室で開催されました。2011年5月1日、永井隆博士が逝去してから60年を迎えました。今回の企画展では、館蔵品をはじめ、長崎市永井隆記念館から借り受けた写真、書画等を中心に40点の資料を展示し、永井博士の業績をふりかえりました。医学者として、作家として、カトリック信者として、そして子を想う親として、「如己愛人」を体

現し、平和と隣人愛を訴えた永井博士の「まなざし」を追うものでした。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170
<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/peace/>

長崎市歴史民俗資料館:長崎

「戦時中の暮らし展」が2011年6月23日～8月28日の会期で開催されました。貨幣・紙幣・切手・葉書・教科書・防砂袋・電熱航空被服・鉄帽・防空頭巾など約100点が展示されました。

Tel&Fax:095-847-9245
<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/siryokan/>

長崎純心大学博物館:長崎市

企画展示「『長崎と原爆』展」が2011年6月27日～8月30日の会期で開催されました。純心女子学園は原爆で、当時爆心地から1.2kmの場所にあった校舎は焼失し、「純女学徒隊」として勤労奉仕に出ていた学生や職員ら214名が亡くなりました。今回の企画展示では、純女学徒隊の一員だった殉難学徒の写真や、被爆後、自らも負傷しながら、三ツ山の救護所で江角ヤス先生はじめ多くの負傷者の治療に尽力し、亡くなった純女学徒隊員を想って詠んだ「燔祭のうた」など多くの作品を遺した永井隆博士の作品など、長崎原爆に関係する資料を約40点展示しています。また、博物館内には『純女学徒隊殉難の記録』、恵の丘原爆ホーム入居者の体験談をまとめた『青空～平和への希望を託して～』などの本学園と原爆に関する書籍や、広島・長崎の原爆に関する書籍を中心に収集している磯村平和文庫を併設しています。戦争を体験していない世代が大半を占める今、数少ない体験者の話はもちろん、当時の惨状を物語る資料から「戦争」を知り、考え、伝えていくことが必要です。この企画展を通じて、少しでも多くの方に「戦争」「平和」について今一度考えるきっかけにするために開かれたものです。主な展示品は、永井隆「燔祭のうた」、純心女子学園「純女学徒隊殉難の記録」、純女学徒隊隊員の写真と日記帳(複製)、丸木位里・俊「原爆の図」、小崎侃「廢墟の浦上天主堂」、加藤みつこ「きりえ 瓦礫の中の浦上天主堂」、大岡創元「或る証言」、築地重信「浦上天主堂周辺の被爆遠望」、被爆した大浦天主堂のステンドグラス、山里国民学校(小学校)被爆校舎の消し炭とチョーク、浦上天主堂の天使半身像(頭部)です。

Tel:095-846-0102 Fax:095-849-1694
http://www.n-junshin.ac.jp/univ/museum/museum_body.htm

沖縄県平和祈念資料館:糸満市

台湾沖縄 平和資料館交流事業「子ども・未来・メッセージ展」が2011年3月16日～4月17日の会期で開催されました。

2011年度第1回子ども・プロセス企画展「子どもたちと沖縄戦一廃墟からの復興」が2011年6月10日～7月11日の会期により、1階ひろば・ゆいまーるで開催されました。小中学生が、同じ年頃の子どもたちが沖縄戦でどのような状況におかれていたのかを学べる展示内容でした。

「新収蔵品展」が2011年6月14日～7月31日の会期により、1階の企画展示室で開催されました。2010年度に新たに収蔵された県民財産を公開しました。軍刀やラップ、陶磁器製手榴弾、米軍兵が使用したナイフなどの、新収蔵資料約90点を通して、沖縄戦及び戦前戦後の歴史に対する理解を深め、戦争について考え平和への思いを新たにすることを提供するものです。

「児童・生徒の平和メッセージ展」が本館では、2011年6月23日～7月6日の会期により、2階海と礎の回廊で、八重山分館では2011年7月13日～21日の会期で開催されました。児童・生徒の平和に関する図画、作文、詩の応募作品の中から優秀な作品を選定して、展示し、沖縄発の児童・生徒の平和メッセージを発信するものです。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

対馬丸記念館:沖縄・那覇市

テレジン収容所パネル展「テレジン収容所にいた小さな画家たち」が2011年6月13日～26日の会期により、1階の企画展示室で開催されました。

Tel:098-941-3515 Fax:098-863-3683

<http://www.tsushimamaru.or.jp/>

沖縄県立博物館・美術館:那覇市

「平和祈願・慰霊・大行進50年のあゆみ」展が2011年6月21日～26日の会期により、県民ギャラリー1・2・3で開催されました。

Tel:098-941-8200 Fax:098-941-2392

<http://www.museums.pref.okinawa.jp/index.jsp>

沖縄県公文書館:南風原町

ミニ・パネル展「海の沖縄戦展」と新規公開写真展「1944 サイパンの夏」が2011年6月17日～7月20日の会期で開催されました。

Tel:098-888-3875 Fax:098-888-3879

<http://www.archives.pref.okinawa.jp/>

うるま市立石川歴史民俗資料館:沖縄

平和資料展「毒ガス…沖縄にあった見えない兵器」が2011年6月14日～7月10日の会期で開催されました。

Tel&Fax:098-965-3866

<http://www.city.uruma.lg.jp/1/201.html>

うるま市立海の文化資料館:沖縄

うるま市立海の文化資料館で、「原爆と戦争展」パネル展が2011年5月31日～6月5日の会期により、吹き抜け階段・展示場奥で開催されました。

Tel:098-978-8831 Fax:098-978-8841

<http://www15.ocn.ne.jp/~umibun/>

宜野湾市立博物館:沖縄

企画展「沖縄戦と基地」が2011年6月15日～7月3日の会期により、1階の企画展示室で開催されました。

Tel:098-870-9317 Fax(市庁舎):098-870-9316

<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/2556/2562/2563/2564/1419.html>

久米島博物館:沖縄

「平和展」2011が2011年6月22日～30日により、講堂で開催されました。展示内容は、①上江洲盛元さん所有の戦争資料・写真パネル②久米島博物館収蔵の戦争資料・召集令状、軍服ほか博物館収蔵戦争資料③久米島高等学校平和学習取り組み資料④沖縄戦関係映像コーナーでした。

Tel:098-896-7181 Fax:098-896-7182

<http://sizenbunka.ti-da.net/>

宮古島市総合博物館:沖縄

慰霊の日関連特別展示「今に残る戦争遺跡」が2011年6月16日～26日で開催されました。戦争遺跡を再認識し、宮古における沖縄戦の様子を知ることで未来の平和について考える場にしてほしいとして、昨年が続いて開催されたものです。今年は島内各地に残る地下壕や機関銃壕、特攻艇秘匿壕などの戦争遺跡22か所と慰霊碑2か所を115枚の写真とともに紹介しています。展示写真の多くは、同博物館の学芸員らが今回の展示会のために主な戦争遺跡を訪れ現状を確認した際に撮影したものです。その他、宮古島の戦争遺跡地図、宮古島戦争

関係年表、軍服やサーベル、召集令状、軍隊手帳なども展示されました。

県立埋蔵文化財センターの山本正昭さんを講師とする関連講座「宮古の戦争遺跡と県内での戦争遺跡活用事例の紹介」と、戦争遺跡(海軍第313設営隊の地下壕群)見学会が2011年6月18日におこなわれました。

Tel: 0980-73-0567 Fax: 0980-73-0822

<http://museum-okinawa.jp/49miyakojimam/index.html>

海外ネットワークニュース

第7回国際平和博物館会議に参加して

INMP 理事 山根和代(立命館大学)

国際平和博物館会議は、3年おきに開催される平和博物館の国際会議です。前回(2008年)は日本で開催され、立命館大学国際平和ミュージアムはメイン会場となりました。

そして今年5月、スペインのバルセロナでの第7回会議に参加しました。今回のテーマは、「戦争と暴力の文化から平和と非暴力の文化への変容における博物館の役割」でした。

国際平和博物館会議の第一回から第六回までは高知市にある平和資料館「草の家」の代表として参加しました。今回は立命館大学の一研究者として参加することができて幸いでした。この国際会議はオランダのハーグに事務局ができて初めて組織され、事務局員のニケ・リスカリエット(Nike Liscaljet)さんが大活躍されました。

会場はバルセロナのモンジュイック城でしたが、その古いお城を平和博物館にするためにバルセロナ国際平和資料センターが中心になって努力がなされています。最初に平和市長会議に入っているカタルーニャ州バルセロナ県のバルセロナ市、グラノリエルス市などの市長さんから報告がありました。カタルーニャ州は、独特の言語・文化を持ち、スペイン内乱では人民戦線の拠点となった自治州です。グラノリエルスでは1938年ドイツの空襲で約200名が死亡しましたが、1979年の民主的政府ができるまで約40年間語られなかったそうです。しかし

1980年代以降若者に空爆の記憶と平和の尊さを伝える記念行事を行っています。市民が傘に平和のメッセージを書くなど、創意工夫した取り組みをしているそうです。日本の平和博物館と交流をすると良いのではないかと思います。

国際会議では、平和のための博物館国際ネットワーク

(International Network of Museums for Peace: INMP)に入っている博物館関係者だけでなく、今後平和博物館を創ろうとしている人々(ニューヨークやミラノなど)、芸術を通して平和の実現を目指す人々の報告がありました。今後INMPのウェブサイトにも国際会議の詳細が英文で載ると思います。

(www.museumsforpeace.org) 総会において、日本人では安斎育郎名誉館長と私が理事に選出され、早速メールで次の国際会議場について意見の交換をしているところです。

ブラッドフォード大学 J.B.プリーストリー図書館: イギリス

「100のオブジェクト」の特別展についてのお知らせです。人気の大英博物館シリーズを元に、毎週新しい展示を紹介します。本大学やヨークシャー、社会・政治の歴史、文学や毛織物についてです。

100のオブジェクト(現在まで)

1. 知識労働を作る: ブラッドフォード大学勅許
2. 平和の印: 核軍縮シンボル(オリジナル・デザイン)
3. ペルーの毛織物のバッグ: タイタス・ソルトの日記
4. 地獄への小旅行: J.B.プリーストリーの1940年追加放送
5. 石の中の詩: 土地、ジャクエッタ・ホークス

最先端アーカイブ賞を受賞しました。

Alison Cullingford

Special Collections

J.B. Priestley Library

University of Bradford. BD7 1DP. UK.

special-collections@bradford.ac.uk

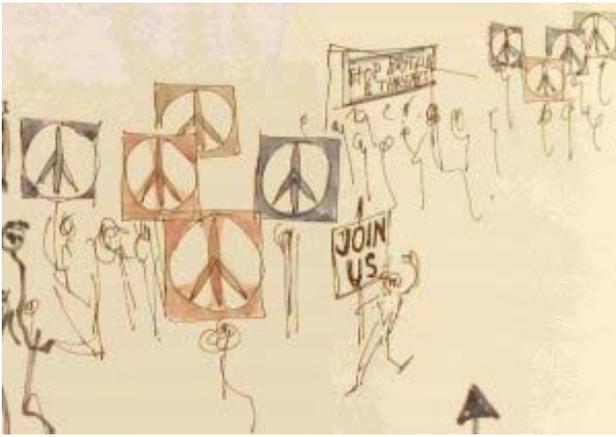
+44 (0) 1274 235256

<http://www.bradford.ac.uk/library/special>

下記はその一例です

平和の印: 核軍縮シンボル

核軍縮シンボルは「ピースサイン」として知られ、平和と反対運動の現代のアイコンです。ファッションや若者文化に多く見られ、今も力強い感情を呼び起こします。



オリジナル・デザインは特別収集品としてコモンウェル図書館にあります。1958年、直接行動委員会が組織したオルダーマストンの行進のため、ジェラルド・ホルトンが制作し、核軍縮運動が後にこれをシンボルとして使い始めます。このイラストは、ホルトンが行進のバナーで使用したシンボルのスケッチです。ホルトンのほかの作品は下記のウェブページに掲載しています。

<http://www.bradford.ac.uk/library/special/cwlND.php>

ブラッドフォードでは、このデザインは平和に関する数々の作品ネットワークの中心的存在です。このネットワークは、学内の平和学科や街の急進的で行動的な伝統の中で大きくなってきました。この類まれなコモンウェル図書館は当大学を拠点としています。図書館が収集したアーカイブは、特別コレクションにあります(最近 PaxCat Project が目録を作成)。学内のアート・コレクションは多くの関連作品を含み、平和博物館はブラッドフォードの中心部にあります。



これらは、運動家たちが使用したこのシンボルのコレクションのほんの一部です。オリジナル・スケッチはあまりに脆く展示不可能ですが、図書館或いは博物館での数枚のコピーが、大抵展示されています。

グアンタナモを忘れない

アルビー・サックス判事とアリヤー・ネイヤー氏とともに

2011年4月28-29日
Jerome Greene Annex
Columbia University

New York City

国際正義の遺跡連合(International Coalition of Sites of Conscience)とコロンビア大学の人権学会、歴史・救済・和解についての学内セミナー、口述歴史研究室により、グアンタナモの米国官軍基地のシンポジウムを行います。

南アフリカの憲法裁判所判事であるアルビー・サックス判事はアパルトヘイト反対運動家で、ヨハネスブルグの悪名高きオールド・フォート刑務所後に南アの新憲法裁判所を造った立役者です。人権ウォッチの創設者であり米国自由人権協会の元理事であるアリヤー・ネイヤー氏は、現在オープン・ソサエティ・ファンデーションの代表です。この2人がそれぞれの視点で発表します。

グアンタナモを「忘れない」というのは過去を思い出すことではありません。軍事裁判を支持するという最近のオバマ政権の決定は、拘留施設を使用し続け、その囚人を無期限に拘束することを確認するものです。Gitmo は過去のことでありません。しかしそこには、今、何が起きているのかという批判的見解を与えてくれる過去があります。

このシンポジウムで、歴史家、弁護士、博物館関係者、その他の人々とともに、米国の政治や政治的文化における「例外の州」としてのグアンタナモ湾を検討し、グアンタナモの世紀に渡る歴史を公に知らしめ、今何が起これ、これから何が起これるのかについて人々に関わってもらえるための方法を考えましょう。

2011年シンポジウムの内容

「例外の州」としてのグアンタナモの歴史についての最近の研究

* Gitmoの住民、労働者、拘束された何千もの人々の体験談を共有するクリエイティブ・メディア(ビジュアル・アートからフィルム、ウェブデザインまで)

* Gitmoの歴史を広く知らせるための戦略や協力体制を構築するワークショップ

お返事はこちらま

で:<http://hrcolumbia.org/guantanamo/attend>.

ご協力をお願いします。

国際正義の遺跡連合とは、正義のために戦った過去を忘れず、現在遺されたものに取り組むために設けられた、歴史的現場の世界的ネットワークです。

国際平和連帯博物館(International Museum of Peace and Solidarity):ウズベキスタン

「博物館で音楽を」
文化と芸術の夕べ
美が世界を救う

「博物館と記憶」というテーマにおいて世界中で行われる2011年の来る国際博物館デーに 博物館・文化と芸術の会の演奏会では、米国のバンド Charming Hostess を迎えました。管楽器奏者で指揮者のジェイソン・ディッチアンが、バビロンの魔よけから発想した The Bowls Project という革新的で歴史的かつ文化的な音楽を演奏しました。また、Charming Hostess のオリジナル曲、米国の他のアーティストの作品、ウズベキスタンの伝統的な曲もありました。このイベントは、サマルカンド地域研究博物館の美しく装飾された古いホールで行われました。サマルカンド平和博物館の活動家らが、平和、友好、記憶、友情、そして団結の記念として参加者らに日本の折鶴を配布しています。

サンフランシスコから訪れたジェイソン・ディッチアンのスピーチ

「私は、美が世界を癒すことを信じ、この音楽を共に楽しみ、この古代のボウルの歴史がこのメッセージを伝えることを願います。世界の全ての人、場所や言葉、時間を越えてみな平和と愛と幸せという同じ願いと夢を持っているということです。私は今、この何千年もの伝統を持つシルクロードの交差点である古代からのサマルカンドの地に立っていることを誇りに思います。ウズベキスタンの音楽が大好きです、サマルカンドの音楽家らと一緒に活動することをとても嬉しく思います。一緒に地元の料理を食べ、国家遺産を尋ね、たくさんの友人ができました。この美しい国で、たくさんの忘れがたい経験をしています。ウズベキスタン共和国は、今年独立20周年を迎えます。ここに心より祝福し、未来の栄光を願います。」

このイベントは、当平和博物館の永久プロジェクトである「美は世界を救う」として行われ、サマルカンド市文化スポーツ課、サマルカンド国立博物館、サマルカンド美術大学によって支援されました。

連絡先: Mr. Anatoly Ionesov
電話: +998 (66) 2331753
Fax: +998 (66) 2331753
Eメール: imps86@yahoo.com
住所: P.O. Box 76, UZ-140100 Samarkand, Republic of Uzbekistan
ホームページ: peace.museum.com

平和博物館: 英国ブラッドフォード

ブラッドフォード都市庭園に命を吹き込む生徒達の平和

美術

平和博物館で行われた地元の芸術家ザリーナ・バルによるワークショップに、Challenge College の9年生たちが参加しました。ワークショップでは、ブラッドフォード都市庭園の掲示板に年表の壁画を作成するという生徒らの課題に取り組みました。2011年3月26日(土)から展示されます。詳細はこちらまで。

<http://www.peacemuseum.org.uk/?p=1848>

こけし展

Education Bradford のスタッフとブラッドフォードの生徒達によるこの力強い展覧会では、平和博物館の作品もいくつか展示されました。広島を激しく破壊した原爆後の、佐々木サダコさんと友人の物語を探ります。ブラッドフォードのヨークシャー・クラブ・センターにて、3月3日~4月7日の間、無料で開催されました。

詳細は <http://www.peacemuseum.org.uk/?p=1119>

芸術家サリマ・ハシミ氏から寄贈

平和博物館は、パキスタンの最も著名な芸術家サリマ・ハシミ氏より絵画の寄贈を受けました。カシミールに壊滅的な影響を与えた2005年の地震後、サリマ氏が制作したシリーズのひとつである「Rain1」です。カシミールは、以前はパキスタンでしたがインドだったこともあります。この作品は、その瞬間を力強く語るとともに、この社会的大変動後のインドとパキスタンに確立された重要な平和をも語ります。

詳細は

<http://www.peacemuseum.org.uk/2011/06/27/peace-museum-receives-work-of-art-from-salima-hashmi/>

平和博物館のツイッター

平和博物館では、ソーシャル・ネットワークであるTwitterにて、支援者らにフォローしていただき、博物館の最新情報をお伝えしようとしています。ツイッターで行事や展覧会をお知らせしたり、最新情報や事実を共有、交換したり、特別な発表を行ったりしている平和博物館のような博物館が増えています。

詳細

は <http://www.peacemuseum.org.uk/2011/06/27/the-peace-museum-tweeters/>

オンラインで安全で簡単な寄付を

平和博物館への寄付をオンラインでできることをご存知ですか? 当館では、義援金に対する無料サービスを行う Charity Choice によるオンライン・サービスを提供しています。手数料は一切必要ありません。安全で簡単に行えます。平和博物館ホームページ上の「Donate」欄、

或いは各ページ(右下の「Donate Now」)にオンライン寄付のリンクがあります。

博物館への寄付の方法は:

<http://www.peacemuseum.org.uk/donate/>

CharityChoice の当館へのオンライン寄付ポータルは:

<https://www.charitychoice.co.uk/donation.asp?ref=158495>

The Peace Museum (office)

Centenary Square

Bradford BD1 1HY

T: 01274 434009

E: peacemuseum@bradford.gov.uk

W: www.peacemuseum.org.uk

こども平和センター:アメリカ合衆国

アースデーをお祝いしましょう!

2011年4月12日はアースデーです。毎年、世界中の人々が、自分の行動について、また自分が地球にどう関わっているのかを考える日です。環境保護責任について、そして私達が住む美しい青い地球を守ることにについて考えます。

私達は今、多くの製品を再利用・再生し、ごみを削減するために私達に何が出来るか知っています(知らなければなりません)。多くの製品は、生活をより快適にしますが、多すぎると生活に必要な土地や空気、水に悪影響を与える可能性があります。アースデーは私達の意識を高め、努力する日なのです。

地球への自身が及ぼす影響を考え、地球の環境を守り改善するために何が出来るかを、全ての人に考えて欲しいのです。アースデーを祝ってあなたが変わったことを、私達の Facebook ページに書き込んで下さい。

アトランタ周辺で、多くの活動が行われています。あなたもぜひ参加してください。地球を一緒に祝いましょう!アトランタのイベントを Facebook ページに掲載しています。

環境があなたを待っている!

ジャクリーン・クックとアビゲイル・クック
(環境問題に取り組むゲスト・レポーター)

「環境を守るために何が出来るかしら。私は子供だし…」なんて思ったことはありませんか? そうだとしたら、あなたは今日ついてきます。本当のところ、子供はみんなが思っているより世界を変えられるんです。でも、大人も

子供も、いったいどこから始めればいいのかわからないので、それはとても大変なことに見えます。一番いい方法は、小さなことから始めることです。そして、楽しむこと、これが一番大事なのです!

もうご存知かもしれませんが「環境の3R」とは「ごみの削減、再利用、再生、reduce, reuse and recycle)」です。ほとんどの人は、再生に重点的に取り組みます。確かにとても重要で素晴らしいことですが、ごみの削減や再利用はどうでしょう? 重要というだけでなく、うまくやれば、お金の節約にもなるのです!

環境を守る食物・包装の選び方

Jeanne M. Robinson

環境保全の方法について Jane Robinson さんからの提案です。あなたはどうしたら環境が改善できるか考えたことがありますか? 牛肉を食べますか? 地元で採れた食材を購入していますか? 布製の買い物バッグを持参していますか?— これらの観点について、今年4月、詳細な調査が行われました。Jeanne Robinson さんが提案する私たちが考えるべきこと。その示唆に富んだ記事をお読みください。

子どもと一緒にクリエイティブな遊び

子どもの想像力や創作力を伸ばすには何をすればいいのでしょうか? このリンクには、リサイクル素材を使った創作のアイデアが数多く掲載されています。

子どもと一緒にクリエイティブな遊び

用意するものは、何かの新しい素材に、グルーガン(接着剤)、テープ、ひもだけです。これで、あなたにとお子様にとってオリジナルなものを作ることができます。

特別な子どもの絵本

『The Great Kapok Tree (大きなカポックの木)』

4歳~8歳向けの挿絵が美しい絵本です。ある男が、熱帯雨林の森でカポックの木を伐採中、眠りに落ちます。その森の住人である、へび、蝶、ヒョウ、そしてひとりの子どもが、木々や美しさを失った森で生きることがもたらす恐ろしい結末を男の耳元で囁きます。男は目を覚まし、周囲の動物たちに驚き、斧を投げ出して森から去ってしまいました。

『Dear Children of the Earth (地球の子どもたちへ)』

4歳~12歳向けの美しい絵本です。この物語は、母なる地球が世界中の子どもたちに助けを求める手紙から始まります。子どもたちを愛する代わりに、同じ愛と感謝の気持ちを子どもたちに求めます。心のこもった言葉で語

りながら、愛情で子どもたちを包み、地球を守るよう託します。

全国ボランティア週間を迎えました。非営利の慈善団体に、時間、能力、財産を提供してくれた素晴らしいボランティアの人々を称える一週間です。我々、子どもの平和センターは、ボランティアなくしては成り立たない、ボランティア主導の組織です。そのおかげで、寄付金全額を子どものためのプログラムに投入することができるのです。それぞれに可能な方法で支援活動を行うボランティアに感謝します。子どもたちは”Stop, Think, Peace” の言葉を友達に伝え、ご年配の方々からは寄付をいただき、「年若い手助けできないが、素晴らしい活動を人に伝える」と言われるお年寄りもおられます。我々の活動を広め、人生でより賢明な選択ができる子どもを育てるためのプログラムを広めることを支援してくれる人々に対し、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。ボランティアは活動期間を問わず大歓迎です。応募の詳細はボランティアのページをご覧ください。あなたが他者に恵みを与えるように、あなたにも神のご加護があるでしょう。

平和へのパートナーの皆さんへ

4月22日の「地球の日(アースデー)」は私にとって大切な日です。母なる地球を称え、祝う日であると同時に、私の両親にとっての“記念日”でもあります。両親の結婚生活は65年を超え、それは、この地球上において祝うべきことです。両親が私に教えてくれたことは、”stewardship”, つまりこの美しい地球と同様、友達、家族、お金、時間、才能、健康、心、精神、といった私が持てるもの全てに気を配り大切にすることです。ボランティア活動は、隣人への恩返しであり、地球を守る手段の一つであるということです。

4月、イースターの新しい生命の誕生という意味に対し神を称えました。ガンを克服しつつある私は、与えられた新しい命を大変有難く受け止めています。また、5月には母の日を、6月には父の日を祝い、この3ヶ月間はお祝いとともに、両親、友人、家族、そして私の健康を祈り支えてくれた人々への感謝の気持ちでいっぱいです。生きていることが素晴らしい時代です。毎日新しい日与えられるのは命を祝うためです。この世の生命を称え、地球そして万物への感謝の気持ちを持ちましょう。全力を尽くして互いに思いやり、生命と健康を称え、私たちの環境を守りましょう。

Andria Melham

Children's PEACE Center (子どもの平和センター)

P.O.Box 379

Acworth, GA 30101 USA

イラン東日本大震災被災者チャリティバザー開催

2011年5月19日 日曜日

イランの首都テヘランで東日本大震災被災者のためのチャリティバザー開催

主催者はイラン在住日本女性の会(the Japanese Women's Association in Iran)、テヘランに本拠を置く化学兵器被害者を支援する会(the Society for Chemical Weapons Victims Support)、ペイダリ市民センター(the Paydari Civic Center)でこれが2回目。その模様は木曜にTV放送された。

日本人女性が参加したことで、バザー会場はイランと日本の文化交流、また震災後の日本の苦労を語りあう場となった。

広い会場では日本やイランの料理が並び、イランの伝統手工芸品も販売された。売り上げは被災者救済にあてられる。

ペイダリ市民センター代表アリ・シャリフィアン氏は「ささやかながら被災者の力になりたい」とTVで語った。

イラン在住日本女性の会のヤمامラクニコ氏によると、バザーに寄せられた義援金は津波の被災地域の負傷者に贈られる。

金曜日にテヘラン市内で美術展開催に合わせて義援金集めのコンサートが催される予定。

3月11日、日本は本州北東沿岸で発生したマグニチュード9の地震により高さ7メートルの津波と50回以上の余震に見舞われた。

この地震による被害とその後発生した首都圏に隣接する福島原発の炉心溶解による放射能汚染に、日本の復興への苦闘は続く。

<http://www.presstv.ir/detail/180775.html>

アラブの春と非暴力活動

エンヴィジョン・ピース・ミュージアムの使命は、日常および世界に存在する暴力と不正に打ち勝つ力を来館者に与えること。その根底にあるのは、前向きな変化を生み出す強力な手段としての非暴力活動の原理と手法に対する信念である。

20世紀末のセルビアとウクライナの非暴力革命の成功はすぐに報道から消えた。大国が関与する歴史的な戦争の本流から外れた風変わりな事件として、メディアの興味は一過性のものに過ぎなかったようだ。だが、ますます広がり長引く北アフリカと中東の闘争にはメディアも深い関心を寄せている。過去半世紀にわたり急速に成長した非暴力活動は世界中のマスコミの理解を得はじめてい

る。1990年製作のドキュメンタリー・シリーズのタイトルでもあるこの「より強い力 (A Force More Powerful)」は独裁者を暴力によらず打倒する助けとなっている。

テヘランの学生活動家

2010年12月(クリスチャン・サイエンス・モニター紙)

マスコミも真剣な注意を向け始めた今、これらの革命の過去と未来の展開の全体像が浮かんできた。各地の運動で活用されたジーン・シャープ氏の实用書『非暴力活動の手法』等の影響力も重要な役割を果たしたが、マスコミの注目が高まったおかげで、非暴力活動の全容が一般大衆の目にも明らかとなり、数々の驚きをもたらしている。

例えば、本来草の根運動である非暴力活動は政府の管轄外と捉えられてきたが、新たな状況が浮上している。ニューヨーク・タイムズ紙の「米国の団体がアラブの騒乱を助成」という見出しの記事では、米国政府が支援する3つの支持政党の異なる団体に光を当て、「多くの団体・個人が、エジプトの4月6日運動、バーレーン人権センター、イエメンの若者の指導者エンツァー・カディのような草の根運動家など、アラブ世界に広がる反乱と改革に直接関与しており、共和党国際研究所 (IRI)、全国民主党研究所 (NDI)、ワシントンを拠点とする非営利人権団体フリーダム・ハウス等の団体から訓練や資金援助を受けていたことが、取材およびウィキリークスが入手した米国の外交電報より明らかになっている」と述べている。また、政府の間接支援を受けるこれらの団体の活動により、中東の指導者が指導力を蝕まれるとの苦言を呈し、米国との間にしばしば緊張感が生じたとのことだ。

これらの団体への支援は米国が対外軍事援助や戦争に費やす額に比べれば些少ではあるが、圧制下の国々における草の根運動の政治的指導力と対抗政権運動の育成に米国政府が関与していることは進歩と言えよう。だが、チュニジアを訪れたサンフランシスコ大学中東研究課程スティーブン・ズーンズ教授は「民主化運動の活動家に投げられた催涙弾に刻まれた『米国製』という文字が、米国政府が独裁政権との闘いにおいてどちら側についていたかを示している」と述べ、米国の経済政策が革命の中心的要因である構造的失業の一因となり、チュニジアの経済エリートの懐を温めた事実も指摘している。米国の政策は全般的にまだ先は長いと言える。

他にも重要な事実や教訓が表面化してきている。チュニジアとエジプトの変革は(一部では暴力による死者が出たものの)根本的に非暴力であり、民主主義体制に落

ち着くのは先の話だとしても、リビア等他のアラブ諸国で集団暴力により何千人もの命が失われていることを考えると、貴重な教訓を示している。4月13日付ロイターのインタビュー「非暴力抗議と政治的柔術」で、シャープ氏は準備と訓練の重要性を力説し、準備が整っていたエジプトとそうではなかったリビアを例に挙げている。シャープ氏はこう論じる。

「非暴力を用いる人々がその手法をきちんと理解していない場合がある。自分たちが暴力を使わなければ相手も使わないと思っているが、まったく逆だ。政権が独裁的であればあるほど相手は暴力を用いると考えるべきだ。独裁政権のDNAに暴力が組み込まれているという理由の他に、故意に暴力を用いて反撃させることで権力基盤を固めるという狙いがある。一方、抗議者が訓練された非暴力姿勢を貫くことができれば、政権の蛮行は己に返る。これを『政治的柔術』と呼ぶ。虐殺は最も無情な側近を除き独裁者の全ての部下の支持を弱める。軍人と警官は平和を愛する市民を無差別に殺すことに耐えられなくなる。軍隊がタハリール広場に集まった群衆に砲撃を加えないと表明した時が、エジプトの革命における転機となった」

現在進行中の革命を巡り溢れかえる夥しい解説の中で、特にインターネットの場合、誰のどの情報を信じたらいいのか迅速な答えが求められている。ズーンズ氏は述べる。「ベン・アリーのアラブ世界に厳しい報道管制を敷いた。そのため前例のないレベルでフェイスブック等のSNSが用いられ、政府がいかにかアクセスを阻止しても抜け道が見出された。(デモのプラカードに"Freedom > From 404"というのがあったが、これは『ファイルが見つからない』と言う意味のインターネットのエラー・コードである)政治的ハッカーは政府のウェブサイトを妨害し応酬した。過度に強調してはいけませんが、反乱を可能にしたのは一般の人々だ。この事実が圧制下の国々においても社会運動の実現性があることを示している」

アラブの春の結果、非暴力活動の持つ可能性と力が示され、世界中の人々に認められることが期待される。但し、一般大衆が非暴力を実行可能で現実的な選択肢と認めるかどうかは今後のメディアの報じ方にかかっている。アラブの春を、先の革命のように人々の記憶から消し去ってはならない。

スティーブン・ズーンズ氏のその他の論説

「エジプトの革命におけるエジプト人の功績 2011年2月17日」

「リビアと米国と反カダフィ動乱 2011年2月25日」

ジーン・シャープ:彼こそ戦略の大家

クリスチャン サイエンス モニター

ジーン・シャープの著作「非暴力アクションの力強さ」に関して平和活動作家のジョージ・レイキは以下のように述べています:「ジーンは社会の喫緊の課題を取り上げており、強欲、汚職によって機能停止したアメリカを憂う我々を元気づける。」

国際舞台でも実践論を展開し、19世紀プロシアの世界的戦略家になぞらえて「非武装のクラウゼヴィッツ」と呼ばれてきたシャープですが83歳の今まであまり知られていませんでした。彼の綿密な研究は、あらゆる非暴力戦略を促進するためのNPO「アルバート・アインシュタイン研究所(AEI・在ボストン、1983年シャープが創設)」で行われてきました。

イラン政府が2009年の選挙での不正を彼の理論に基づいて訴追し、エジプトやチュニジアの革命でもそれは若者の行動に影響を与えました。ハンドブック「独裁から民主主義へ」はセルビア独立運動にも寄与し、彼の著作は1991年ソ連離脱後のバルト三国の政府にも活用されました。

シャープの経歴はAEIのウェブにあります。ハーバード大学国際問題センターに30年勤務、現在はマサチューセッツ ダートマス大学の政治学名誉教授です。オックスフォード大学で政治理論の博士号を取得、英国、ノルウェーの研究機関で活動してきました。その著作は多く、世界27カ国語に訳され「非暴力行動としての政治(1973年)」は非暴力戦略の古典と言われます。

この他「ガンジーはモラルで武装する(1960・アインシュタインの前書き)」「政治戦略家ガンジー・その倫理と政治の随想(マーティ・ルーサー・キング夫人のはしがき)」などがあり、「非暴力的苦闘の力と実践」は執筆中でそのチベット語版ではダライラマ14世の前書きがあります。

近年、AEIはシャープについて以下のように述べています。「彼は非暴力的苦闘の本質を端的に表し、いくつもの危機的な状況に対してワークショップを実施、非暴力的戦略を指導してきた。現存する未解決の暴力行為に対しては新たな解決戦略を再考することが求められており、彼の非暴力的戦略は高い効果をあげ暴力行為に代替する紛争解決策となる。」

エンビジョン平和博物館(アメリカ合衆国)会報

2011年6月 博物館便り

平和を学ぶ:エンビジョン博物館プログラム予定

エンビジョン会員からの質問:

*エンビジョン平和博物館ではどんな仕事をしています

か? 現在どのような形で社会に貢献しようとしていますか? 企画展から何を学んでほしいですか? プログラム立案における基本方針は何ですか?

当館で新たに発足した企画検討委員会(CAP)よりの回答:

委員長レスリー・ダイヤー氏(ジョージメイソン大学教授、平和紛争研究)、ベス・ティンカー氏(ユニバーシティオブアート、展示デザイン講師およびフランクリン・インスティテュート前展示デザイナー)およびCAPは、各参加者グループに適した柔軟なプログラム作成と来館者に社会学習の体験をしていただくことをめざしています。

多くのボランティアの方々のご協力に感謝します。

2011年夏以降、以下のような企画を展開する予定です。

- ・ 平和問題、平和活動に寄与する人々や団体に焦点をあてた映画シリーズの上映会。
- ・ 平和活動推進者および平和運動関連の知識・技術・研究の普及に努めた方を1名選出する大イベントおよび授賞式典
- ・ 高度な対話型ウェブサイトの開設、オンラインアートコンテストの実施
- ・ 主要美術館との連携による常設展示および移動展示会の企画立案
- ・ 第一スペースにおける中心的展示の試作
- ・ これらプロジェクトを推進し試行、管理する青年評議員会の設置

各種理事・役員および有志の専門家たちで構成されるプロジェクトグループが、これら企画を作成しています。会員のご意見も歓迎します。

つきましては、以下のご質問にお答えください。

- ・ あなたのお好きな平和関連の映画はなんですか? 上映会プログラムに加えてほしいと思うドキュメンタリーを最近ごらんになりましたか?
- ・ 平和とは何かを理解するのにあなたにとって一番助けになった人物または団体はありますか? 平和を脅かし、紛争の根となるものを知る手助けをしてくれたのは誰ですか?
- ・ お気に入りの平和関連のウェブサイトはありますか?
- ・ 最近あなたが観た展覧会のなかで最も触発されたものは何ですか? 博物館のイベントや企画展で印象に残ったものはどれですか? それはどんな印象でしたか?

我々は皆様のご意見を参考にしつつ、パワーあふれる企画を作っていきたいと考えています。

ご意見はContent@gmail.com.まで。

美術館便り

今後5年間の運営方針

理事会が支援者の皆様の助けも借りながら1年以上かけて完成させた博物館 2011～2015年の企画方針が公開されました。近くウェブページに最終報告が掲載されます。しかしこの計画は6つの大きな目標の実現をめざす第一歩にすぎません。

- 目標1 究極の博物館をめざし、体感型企画第1弾の発信
- 目標2 特色ある博物館として、平和を探求し考える場としての位置づけを固めること。
- 目標3 人気の高いオンライン博物館をめざし、ウェブサイトを設定
- 目標4 理事から草の根レベルの人材に至るまで、エンビジョンの発展に寄与する強いリーダーシップを育成。
- 目標5 長期目標達成のため、効率的な資金調達システムを導入し、財政基盤を固める
- 目標6 魅力的な企画の作成、個人レベルでの簡単な双方向の情報発信

今この目標実現に向けて、胸躍るしかし困難でもある大仕事が始まろうとしています。エンビジョン理事アンディ・モゼンターの手腕のもと、企画運営作業はたいへん柔軟に進められました。また各種委員会はその活動をレベルアップし、また新たな委員会も発足します。

エンビジョンでは有志のボランティアを随時募集しております。

代表ミシェル・ガネMichael Gagnéまでご連絡ください。director@envisionpeacemuseum.org

博物館便り

Lost Stories 失われた物語: 語り継ぐ話

「ネットに出ている逸話に感動しました。平和な時代における正義・市民の責任・平和について再考しました。特に反ユダヤ主義者の脅迫に対してユダヤ教ラビとその家族が、彼を探し出し、愛を持って接し、ついには彼を友とするという信じがたい暖かな対応には胸を打たれました。この話を含め、数々の逸話を読み、一本の道をたどって平和にたどりつくのではなく、平和そのものが道であることに気づきました。ありがとうございました。」

この感想を寄せたマイケル・オベル-オミアは中等学校の英語教師で、自分の学校でこのエンビジョンの展覧会

を開催するよう働きかけました。2009年1月フィラデルフィア開催を皮切りに、Lost Stories はニューヨーク州からミネソタ州まで16か所で開催されました。ウェブでもご覧いただけます。にぎやかな学校の円形ホールで展覧会と双方向通信する学生たちの写真もありますのでご覧ください。

Lost Stories は普通の人々が起こした非暴力による世界の変革の物語6つを文章と写真で活写してみせた。平和を愛し実現しようとする行為が個人や小規模グループレベルで始まるのだと観客を触発する。タイの森林を保護する仏教僧からアルゼンチンの全体主義政府を倒そうと戦う母親たちにいたるまで、いかに普通の人々が非暴力で戦ったかが語られる。

- 攻撃的な脅迫に対して
- 家族を守るために
- 環境保護のために
- 正義と民主主義のために
- 排斥運動に立ち向かうために
- 戦争支持勢力を弱体化するために

展覧会の正式な名前は「失われた信念の物語」(Lost stories of Faith)。この「Faith」は、もともとアメリカキリスト教会支部合同会議 national, ecumenical peace conference attended by religious denominationsでの公開にむけての意味でしたが、物語に登場する個人それぞれの信念が「平和への Faith」となって様々な境遇の観客の共感と呼んだのです。

そして、なぜ「失われた」なのか？それは行動したのが普通の人であったこと。素晴らしい行為なのに脚光を浴びることなく、歴史の中に記憶されることもめったになく、簡単に忘れ去られてしまうからです。

この展示会は二つの形をとっており、一つはパネル展示です。フィラデルフィアから気軽にドライブできる距離内での開催に適しています。二つ目はネット展示。遠距離の方にも便利です。どちらも補助教材とともに討論会用の質問リストが付いています。

Lost Stories は一般展示のほか、あなたの住むコミュニティで特別展としても開催できます。詳細はエンビジョン博物館までお問い合わせください。

イタリア平和博物館協会:ミラノ

「ロシアにおける戦争と捕虜 1941～1945 兵士達の苦悩、平和な暮らしへの願いと希望」芸術コンテスト授賞式
2011年6月10日開催
プログラム

イントロダクション:

短編映画「ロシアにおける戦争」上映。

会長ピエトロ・カルツィ、傷痍退役軍人・UNIRR 前会長カ
ヴィ・ピエトロ・ファブリスによるプレゼンテーション

ティナ・レヴェティの挨拶

学生の皆さん、教授陣の皆さんようこそ。

ピエトロ・カルツィ氏ならびにピエトロ・ファブリス氏をは
じめとする主賓の皆様を歓迎致します。また、ミラノ現代
美術館主任学芸員マリア・ルラテッリ氏をお招きすること
ができ大変光栄です。フランコ・モレア氏(テノール歌手
であり当会会員)にも謝意を述べたいと思います。あるお
二方からメッセージをお預かりしております。UNIRR 議
長ルイサ・フサールポリ氏と前ミラノ市長カルロ・タグノリ
博士からです。お二方共にロシア戦争で亡くなったお父
様をご存知ありません。

皆さんコンテストにご参加くださりありがとうございます。
皆さんは偉大なる感性と芸術的技術を見せてくれました。
これらは人生において必要不可欠なツールで、皆さんが
製作活動やスポーツに熱中している時、その手に武器は
なく戦争とは無縁だからです。別の利点もあります。あな
た方は暴力的なビデオゲームや喫煙、アルコール、その
他の危険な行為から遠ざかっていられるのです。

皆さんの学校でお話する機会を頂いた時に、「平和
とは人生における一つのスタイルで心の中にある。心に
平和がある限り世界が必要とする大人になれる」と言いま
した。このテーマに関わっているのは大人だけではなく、
若手歌手シモーヌ・クリスティッチがテレビで素晴らしい
番組「ロシアのローマ人」をロシア革命に関わった彼のお
爺様への追悼として放送しています。

皆さんは最初の出場者なのでご自分達をととても誇らし
く思っていることでしょう。ミラノ市が本当の平和博物館を
開く際にはオンラインだけでなく実際に皆さんの作品を
展示します。「私たちは平和芸術博物館の設立に貢献し
た」と言えるようになるでしょう。

皆さんに感謝すると共に皆さんの魂を育ててくださっ
た先生方にも大変感謝します。私達はテーマを提案した
だけで、先生方は皆さんが繊細で素晴らしい芸術作品を生
み出す事でより深く感性を発展させることができるように
皆さんに影響を与えています。

私が魂を込めたこのコンテストへの協力をしてくれてい
る協会の友人達であるタルシジヨ神父、ピエラ、アナ、
ルシオにも感謝します。非営利であるこの協会に私達は

時間と労力を捧げています。その為様々なイベントの開
催が可能になっているのです。(昨年 12 月に行ったよう
な学校での作品展示と「ウォーク・フォー・ピース」やウマ
ニタリアのピエラ・カラメリーノ教授による平和教育講座
等)年会費は通常会員は 15 ユーロ、特別会員は 50 ユー
ロです。ぜひこの機会に皆さんに会員更新手続き、新規
入会手続きをお願い致します。

皆さんの作品に大変感動しました。私の父を含むあの
醜い戦争で命を落とした全ての人々を追悼する作品もあ
りました。このコンテストは彼らに捧げられたものです。天
国の父もこのようにして偲ばれることを喜んでいてと思
います。こんなにも光栄なことはないでしょう。この企画を準
備している間父を近くに感じました。きっとこれは運命で
しょう。意図した訳ではなく審査員が受賞作品を決めた日
は正に父の 100 歳の誕生日だったのです。

ここでジョークを一つ。ある男は死の床で 3 人の息子を
呼び寄せこう言います。「お前達に・残し・」息子達は遺
産を期待しますが男が言ったのは「お前達に厄介事を残
して行く」。

私は息子マリオファビオ(祖父の名を受け継いでいま
す。現在米国にいて本日は出席していませんが)に厄介
事は残しません。祖父の思い出と忘れ難い全ての出来
事の中にある平和の目的を受け継ぐ使命を彼に残す
つもりです。

外国語高校のあるクラスにより実現した素晴らしい短編
映画は「忘れない」という題名です。これは戦争という地
獄により苦しんだ人々を追悼し彼らを忘れない為のもの
で、誰にも戦争による苦しみを経験させない事を意味し
ます。どうかどんな暴力からも遠ざかっていてください。

また次のような取り組みがありました。

* 世界平和を築こう!

エマニュエレ・カルロ・オスツウニ: 平和についての詩の
朗読

* アナ・ピッキニーニ: 全世界の平和博物館の代表として
2011 年5月にバルセロナで開催された第7回 INMP 会
議のプレゼンテーション

* ピエラ・カラメリーノ: イタリア平和博物館の創造と目的
その未来についての発表

* 短編映画上映作品: No. 22「平和を望むなら平和を築
く準備を」、No.23「平和」、No.31「ここに残る、さよなら」、
No. 57「忘れないで」

*ティナ・ラヴェティによる授与式の挨拶

皆さんとても優秀で三つの賞しか授与することができず残念です。各特別賞には月桂樹の枝と 100 ユーロが贈呈されます。トロフィーには輪と平和博物館のロゴ、すなわち青空に輝く太陽が刻まれています。

4 位に相当する 16 の特別賞から始めましょう。学生の名前が呼ばれ 16 の賞が授与されます。

3 位(賞金各 200 ユーロ):

ルカ・ナグリ(カルバッジオ芸術高校)硬膏彫刻「戦争の負の側面」

フランチェスカ・スピネリ(カルバッジオ芸術高校)混合技法絵画「隅に追いやられ忘れられたもの」

2 位(賞金 500 ユーロ):

エリサ・バルビニ(カルバッジオ芸術高校)水彩画「叫び」

1 位(賞金 1,000 ユーロ)

ルカ・ギルマルディ(カルバッジオ芸術高校)油彩画「平和へ」

キーホルダー配布:受賞作品を選ぶのに大変苦労しました。よりテーマに沿っていた作品を受賞作として選びましたが、その他の作品が賞に値しなかった訳ではありません。キーホルダーを以下の学生に渡してくださる教授達をお呼びします。

教授の皆様プレゼンテーションとキーホルダー配布につきまして改めて感謝致します。

おわりに:

テーマは「ロシアにおける戦争と捕虜 1941- 45- 兵士達の苦悩、平和な暮らしへの願いと希望」でした。運命であるかのように受賞作品は、3 位は有刺鉄線越しの捕虜達の孤独と絶望を描いた絵画と、列をなして車陣へ向かう兵士達の氷雪の仮面と苦難を象徴した彫刻、2 位は兵士の死を描いたものですが、1 位は戦争の闇から抜け出した男が願いと希望と共に青い平和という文字に手を伸ばしている作品でした。

心より未来の平和を願います。

テヘラン平和ミュージアム開館記念式典

2011 年 6 月 29 日 テヘラン

3 年にわたる準備を経て、テヘラン市民公園に平和ミュージアムの新館がオープンしました。1987 年のこの日は、サダム・フセイン政権によるクルド人の町 Sardasht への毒ガス攻撃が行われた日で、現在は化学兵器反対を訴える記念日となっています。市民公園内のホールで行われた開館式典には、海外からは広島平和祈念資料

館の前田耕一郎館長、広島市民代表、イラクにあるクルドの町ハラブジャへの毒ガス攻撃におけるイラク人被爆者が招待され、国内からも平和活動家、毒ガス兵器被爆者、退役軍人、アーティスト、児童生徒が参列しました。

テヘラン市副市長のアヤジ氏、前田広島平和祈念資料館館長、津谷静子広島 NGO 協会会長のあいさつの後、毒ガス兵器被爆者の代表がテヘラン平和ミュージアムからのメッセージを朗読しました。平和をはぐくむ新しいミュージアムの誕生を記念しオリーブの植樹が行われ、40 羽のハトが放されました。テヘラン市副市長と広島平和祈念資料館館長によって正式に開館が宣言された後、招待客全員がミュージアムを見学しました。

テヘラン平和ミュージアムの設立は毒ガス被爆者を支援するイラン人市民グループがテヘラン市の支援を得て 2007 年にスタートし、本館の改装までの間市民公園内の仮施設で活動をしていました。

次のウェブサイトにてテヘラン平和博物館の展示を見ることができます。2分間です。

http://www.youtube.com/watch?v=aT_M7kTujGI

Shahriar Khateri

Tehran Peace Museum /

Society for Chemical Weapons Victims Support

19615/616

Tehran - Iran

Phone: +98 21 6673 1076

Fax: +98 21 6673 9992

ノグンリ虐殺の真相究明運動とノグンリ平和公園開設を振り返って—社会的平和運動に焦点を当てて—

ノグンリ国際平和財団代表 チュン・グド博士

ノグンリ虐殺とは、朝鮮戦争中の 1950 年 7 月 25 日から 29 日に韓国中部のチュンチョン北道ヨンドン県のファンガンミェオンにあるノグンリ村近辺で米国の兵士が市民を虐殺した事件をいいます。皮肉なことに、この事件は韓国国民を守るために派兵された国連軍内のアメリカ兵によって起こされたのでした。殺戮時には 5~600 名の避難民がおり、そのうち約 100 名が米軍の空爆の犠牲になりました。その後空爆を逃れた人々は米軍第一歩兵師団第 7 騎兵連隊によってノグンリツイントンネルに 3 晩約 70 時間閉じ込められ、およそ 300 名の非武装の市民が銃殺されたのでした。

ノグンリ虐殺は広く内外で人権侵害の代表例として認知され平和と人権尊重の重要性を伝えています。特筆すべきことはこの事件の真相解明そして平和創造の中心的

な役割を果たしたのが被害者たちであるということです。彼らは反米主義支持者と見なされ困難な状況に直面してきたにもかかわらず最終的には前クリントン米国大統領から公式の悔恨の声明を引き出すに至りました。このようにノグンリ虐殺は真の過去の清算と和解の手本とみなされているといえます。隠ぺいされた虐殺の真相解明への被害者の取り組みは結実し、人権と平和を一般社会に広める役割を果たしてきています。

それらの活動は以下の5つです。

1. ノグンリ虐殺真実究明への文学的アプローチ・小説の出版
2. 事件を国民の間で共有するための社会教育
3. 学術研究と文化的行事の創設
4. ノグンリ特別法とノグンリ平和公園の設立
5. ノグンリ虐殺の中心的教訓「人権と平和の真価」の促進

被害者たちを中心に進められてきた真実究明の運動の成果は彼らの厳密な問題認識、文学的、学術的アプローチ、人権、平和意識を高めるための確固たるビジョンに起因します。

そういった意味でノグンリ平和公園は被害者とその遺族たちの血と汗と涙の結晶といえます。単に犠牲者を追悼する祈念施設としてではなく、ノグンリ平和公園は世界中からの訪問者たちが人権と平和の尊さを学ぶアジアの平和のメッカとなることを目指しています。2011年の後半に完成予定です。

最後にMUSEの中でこのノグンリ虐殺の教訓を分かち合えることを大変感謝しています。日韓の平和市民ネットワークがアジア太平洋諸国の平和構築実現に向けて密に協力していくことを確信しています。

「ヨーロッパ平和運動の母」ベルタ・フォン・ズットナーの展示を開催しませんか？

立命館大学 山根和代

ベルタ・フォン・ズットナーの『武器を捨てよ！』(1889)という小説についてご存知でしょうか。私がおその本を初めて知ったのは、イギリス、ブラッドフォード大学平和学部のパイター・ヴァン・デン・デュンゲン博士を通じてでした。彼は「平和のための博物館国際ネットワーク」の代表者でもあり、ズットナーの研究者でもあります。この小説は多くの言語に翻訳されているにもかかわらず、まだ日本語の全訳がないことを知りました。英語版でその小説を読み、様々な言語に翻訳された小説を見ていると、何とか日本語に翻訳したいと思うようになりました。そこで友人と

2003年から和訳を始めましたが、みんな仕事、家事、育児などで多忙であり、数年かかって今年やっと出版されました。

この小説が出版された十九世紀の終わり頃、女性が書いた本には誰も注目しなかったし、二流の文学と考えられていたので、ズットナーは匿名で本を執筆しなければなりません。彼女は論文より小説を書くことによって、何とかして平和の実現に貢献したいと考えていました。軍備拡張が行われる中で、ズットナーは「危険を作り出すのは(神ではなく)人間であり、そのことに注意しなければなりません」と述べています。しかし彼女は新聞で「滑稽な愚か者」と嘲笑されました。しかし彼女は「普通の人々は平和を望んでいるし、平和に生きる権利を持っているのです...積極的に戦争を求める人々は、ごくわずかなのです」と述べています。

トルストイはこの小説を高く評価し、「ハリエット・ストーが悲惨な奴隷の境遇を描いた『アングル・トムの小屋』が奴隷制度の廃止につながったように、この小説が戦争をなくすことにつながることを願う」と述べています。

またズットナーはアルフレッド・ノーベルの秘書を一時していたことがあり、ノーベルが平和賞を創設するのに大きな影響を与えました。ノーベルは最初ズットナーの平和への努力に対して懐疑的で、強力な武器によって人々は恐怖に震えて戦争をしなくなるだろうと考えていました。しかしズットナーは、武力ではなく、国際理解と国際協定によってこそ国際平和が実現できると考えていました。ズットナーはノーベルに平和運動に高額の寄付をするように働きかけ、ノーベルはズットナーが創設したオーストリア平和協会のメンバーになって多額の寄付をしました。その後ノーベル平和賞を創設し、ズットナーは1905年に女性として初めてノーベル平和賞を受賞しました。この小説は百年以上前に書かれたが、核兵器が存在する今日、核兵器を廃絶する運動の励ましとなるでしょう。

8月10日から28日まで京都の立命館大学国際平和ミュージアムで、ズットナーに関する展示会が開催されました。また8月20日にはイギリス、ブラッドフォード大学のピーター・ヴァン・デン・デュンゲン博士のズットナーに関する講演会が開催されました。

展示物は主としてオーストリア大使館とデュンゲン博士にお借りしました。イギリスへ返却する前に、京都だけでなく他の所でも展示ができることを願っています。今後展示を希望される方、関心のある方は、山根にご連絡下さい。連絡先は、ky5131jp@fc.ritsumei.ac.jp です。

出版物

原発とヒロシマ
「原子力平和利用」の真相
田中 利幸, ピーター・カズニック
岩波書店 2011

福島原発事故
安齋 育郎
かもがわ出版 2011

増補改訂版 家族で語る食卓の放射能汚染
安齋育郎
同時代社 2011

これでわかる からだのなかの放射能
安齋育郎
同時代社 2011

原爆症認定訴訟たたかひの記録
第1巻(報告集). 第2巻(資料編)
原爆症認定集団訴訟・記録刊行委員会編
2011

おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、必ずしも「平和のための博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解を示すものではありません。

編集後記

海外のニュースの和訳では、谷川佳子さん、池田えりこ、瀧由里子、竹田敦子、増田妃早子、安原三保子さんに協力していただきました。心よりお礼申し上げます。